

# CHAIN

No. 22



AN ORGAN OF FIB. CHEM. DEPT. MAY '66

# 目 次

新入生を迎えて .....	内 野 規 人 .....	2	
我ら <i>Fresh man</i> .....	1 回 生 全 員 .....	3	
フロムナード〔6〕 .....	4 回 生 .....	中 村 隆 博 .....	13
生 命 .....	1 回 生 .....	長 沢 次 男 .....	20
拝啓お姉さま .....	4 回 生 .....	佐 藤 光 則 .....	21
留学生座談会 .....			25
繊維化学教室交歓会について .....	松 本 喜 代 一 .....	31	
詩歌の思い出 .....	相 宅 省 吾 .....	33	
育ちゆく味わい .....	4 回 生 .....	定 田 美 樹 子 .....	35
なかにわ .....			38
研究室紹介 .....			40
「繊維化学教室」のあゆみ(前編) .....	松 本 喜 代 一 .....	51	
編集後記 .....			

# 新入生を迎えて

内 野 規 人

繊維化学教室は大学院研究生ノス名、学部学生ノ名の新メンバーを迎えて、ここに新しい飛躍の第一歩を踏み出した。昭和24年に大学が発足してから滿ノ7年、最初は將に寺子屋のような研究室から出発した。諸先生諸先輩の努力によって現教室が完成した時の非常な喜びであった。その後3講座が4講座となり現状の5講座まで発展し、本年度からは大学院の学生を迎えるに至り、なお8年後には松ヶ崎の新しい教室で研究・勉強にいそむることができる予定であり、名実共に充実した感がある。

ここに私が新入生の諸君に期待することは、ここまで仕上げてくれた諸先輩の努力を空しくせず、なお一層の発展への努力を尽して欲しいということである。駅弁大学から脱皮することはできたものの、いつまでも旧態依然とした状態にあっては、反って退歩さえし兼ねない。今後の発展は、教室の諸先生はもちろんであるが、諸君の肩に懸っていると信じる。

文部省の計算によると、工学部の学生一人を教育するに要する年間経費は600人以下の学部で67万円、3000人以上では15万6,000円であるという(朝日新聞3, 25日)。従って当大学では、少なくとも一年間に3~40万の経費が必要であると思われる。この経費が国民の税金によってまかなわれていることを考えれば、諸君に対する国民の期待もそれだけ大きい訳である。僅かのチャンスの違いで、あるいは諸種の争鬭のために、この思慮に浴したくても、浴し得ない人たちが多数いることを考えて、諸君にかけられた期待を裏切らないで欲しいと切に希望する次第である。然し私は戎武者羅に勉強して欲しいとは毛頭考えていない。心身共に健全な社会人として巣立って行けるだけの素地を十分に作って欲しいということである。そのためには諸君としてしなければならぬ仕事は当然決ってくる。良識ある諸君には、こまごまと述べる必要はない。ただ与えられた義務だけは十分に果たして貰いたいと切に望む次第である。

## 新入生紹介

# 我ら Fresh man

青葉、若葉の新緑が目にもぶしい初夏を迎えて、われわれ一回生もようやく大学生活が板につきはじめ、今さら自己紹介なんて期を逃していると思われる方もおられるでしょう。しかし繊維化学科一回生五十一名の自己紹介をこうして一欄に収録して、互の秘められた側面を知るといふ争も一興あることだろうと思われまふ。

言語というものは人類が生んだ最初にして最も発展し、高度に分化の進んだコミュニケーションの手段です。ですから言語というものは、自分の考えを他人に伝達するのに現在では最高なものだといえます。これらの名(迷)文を通して、互の理解が深まり、大学生活をより豊かなものにしようではありませんか。先輩達よ！ よろしく。

香野 泰治 本籍は岡山県津山市、中国山麓に囲まれた小さな静かな城下町です。人口約7万8千。目立った産業は発達していませんが、町の中央にある鶴山城で今では桜の名所として知られています。

現住所は浴西原67号。出身高は津山高専です。趣味はたいへん多く、まず田園、山野を歩くこと。天文学、マンドリン、トランペット、フォークソング、歴史、マンガ等々。スポーツでは紹介する方面は、ボールが小さくなる程不得意で、もっぱら観戦の方です。特にラテビー、野球が好きです。支持政党は民社党。現在禁煙励行中です。友人付き合いは良い方だと自負しています。

浅野 元彦 私は伊賀者。三重県上野市に産出。我が故郷上野は芭蕉の生地でも有名でもあります。公園には芭蕉翁を祭った辨聖殿がある。その公園を背にして、私の母校上野高校がそびゆる。校舎は古いが玄関の柱等はギリシヤ建築のエンタシスを取り入れた買録のあるものである。

故郷のことはさておき、私の高校生活を紹介します。一年生の時、卓球クラスに所属、一年間で退く。二、三年生のんびり送る。三年生になると成績は下る一方。テレビは毎日欠かしたことなくス〜3時間は見た。テレビは非常にいい。特に「隠気剣士」など

のチャンバラものが大好きだ。

このような私であるが、うまい具合に本校にころがり込んだ。現在、御室仁和寺の先の福王子で下宿。趣味としては、中学の時代、サボテンに凝ったが、今は別はない。いろいろとちよつくことだ。小学校の頃からアダ名は色々授けられてきたが、新しい良いのがほしいと思っている。諸君、我に立派なアダ名を授けたまえ。

荒木 昌男 私は昭和二十二年七月十一日大阪で生まれました。小学校も中学も高校も、そして大学にも浪人ということを経験せずに入ることが出来て、良かったと思っています。今までは文化体育のどちらのクラブにも属して来ませんでした。ですから私の悩の一つに体力がないという争があります。私の特徴は全然目立ないということです。頭は悪いし、体もなく、さらに悪いことには金もない。次には面もまずい。又教室でも一番後に位置しいつもかすんでいます。

井川 修 出身校は茨木高校です。大学へ入ってはみたものの校舎がオンボロでさながら中古良建築物展示場の如き観ではあるが、高校と変りなく、食堂のメシがまずいのも、講義がたいくつで、教官が催眠術の達人であることも変りなく、規則らしきものがないのも変らず。唯一つの変化は女性の数がいささか少なくなった争であった。ドウショウ！好きなものはS・F、絵を画く争も好む。パチンコ、マーヅマンはたしなむ程度。要するに、オトナシクて善良な人間でスく誰れだ疑がっているのは！)

石原 一彦 古い歴史と伝統のもとにユニークな内容と業績で知られている。京都工芸繊維大学に入り、早や半月の日を過ぎました。出身校は地元鴨沂高校ですが、京都勢不振のためまるで地方からやって来た様な感が強く、淋しい毎日です。でも他府県のような盲目的受験主義には反対で、自分が高校として最も理想に近い鴨沂高校に学んだことを誇りと思っております。

工織へ来て最初に気付いた争は、校舎の老朽化と、学生の活気のなさです。建物の方は統合されて近代的な校舎になると期待されますが活気のない争は理科系単科大学の為、仕方のない争かも知れませんが、これは僕達自身の問題であって学校の性質には一応無関係だと思えます。若さの重大な使命に純粋な正義心とF-

ghtにあると思うのです。そして僕は若者なので、若さの使命を忘れない様にしたいものです。二度と帰えらぬ青春を工獄で過ごすことを誇りとし、この複雑怪奇な世の中で正義心と石心ghtにあふれた生活をしていこう。僕は今この様な事を考えています。

井上達一郎 洛北高校卒

上西 三郎 趣味は囲碁、パチンコ(腕前はF口級)。特技として、郵便切手やその他スタンプ類のインク消しのわざを所長。現在、パテント申請中? 新しくラスビー部に入部して、おおいに張切っています。

上野 喬 四條畷高校卒

小野 義人 昭和二十三年一月二十一日生れ。京都市右京区太秦宮の前町七番地。TEL(83) 3911。出身校 京都府立嵯峨野高校。現在ギター部に所属。趣味は音楽鑑賞(クラシック、モダンジャズ但し邦楽は除外。)それにサイクリングです。サイクリング、サイクリング、ヤホー、ヤホー!

小川 暢保 出身校、洛屋。年令 18才。体重、日々に変化し正確値わからず。身長一米八十以上……身長器の最大目盛がここまでしかないののでそれ以上測れず。……残念!

ただ今、分析化学の時間です。眠けをさますためこれを書き始めましたが、これくらいで治りそうにありません。おやすみなさい。-----俺は真面目な男だぜ! -----寝言です恐ろしくらず。

桂 利雄 出身校は京都府立嵯峨野高校です。京の心のふるさと嵯峨野にあるスバラシイ学校です。以前は京都の中心地河原町二条に住んで居ましたが、中学に入る時当地に移って来ました。工科大学が建つとか、なんとか、世間を騒がせた仁和寺頂上テラスの一角のふもとに住んで居ます。本学都まで徒歩で十五分程で、高校時代と同じく自転車に乗っていますが8時頃まで寝ていられるのは有難いことです。大学に入って勉学に励むのは学生の当然の義務ですが、何か一つの事を軸にして人間としての巾を広げたいと思っています。趣味には軟式テニスでハーモニカや笛を勉学の合間に吹くことなどがあります。

川嶋 忠彦 出身地、橿原市小祝町、奮起ながら、一言同輩の諸氏に頼援後

をさせていただきます。私は簡単に明瞭な言葉で表現するならば  
ハルノ・チック・タック —— この一言につきます。

イージヤナイ —— .

川端 隆司 出身校は洛陽工業校校です。

河畠 正尚 住所 大阪市東淀川区加島町 609 TEL (302)

年令 21才 誕生日は7月15日(忘れなく!)

性質 非常にオトナシイ。男子に対しては親切である。

女子には見おきもひない。控えめで目立たない。

常に清潔で毎朝顔を洗うのを忘れない。優雅な気品を漂  
よわせている。

学業熱心で遅刻など一度も遅くない。

趣味 読書、釣 スポーツ全般 古典音楽(その他人に言えな  
いもの等)

将来の希望 オノ志望 大化学者

オノ志望 成り行きによって変化

神吉 司 出身校は龍野高校

金 仁玉 昭和21年6月21日生れ。大阪市立扇町高等学校出身。目下  
のヒコヲチョンガー。趣味としては魚釣、映画鑑賞。下手ではあ  
るが玉突 パチンコ・花札(コイコイ) — 此のカケゴトは小生  
の娯楽の最たるもの。しかしながら麻雀は家庭の争執により除外  
する。性格は、性格検査によればやや外向性となっているが自分  
の鑑定では内向性ロベタで気が弱く金もなければ力もない。最後  
に身長176cm 体重64kg。小生の体に通したクラス等あれば紹  
介されたし。現在無所属。以上何のヒリエもない男ですが以後お  
見知りおき願います。

小谷 和男 大阪市福島区兼平町。昭和22年6月1日生れ。僕も多くの  
皆さく同様一期校を借しくすすばって。ここへやって来ました。  
始めは浪人が入学かと迷いました。でも結局工織でガンバルこと  
になったわけです。だから工織の全てに満足しているわけではあ  
りません。その理由は「工織は社会ではあまり認められていな  
いのではないか」「朝早いので毎年間もシンドイ」「食堂の食バ  
物も今まで食べた中で一番おいしくなかった」からです。

小林 啓二 米津高校の出身。昭和22年1月18日生れ。京都市中京区南  
之町二条上ル夷町565

10年間浪人したが、予想が狂って、国立一期生。過去の歴史に  
鑑固たる基礎をもつ創造的精神の維持達成を人生の最大目標の一  
つと考える。豊かなる精神生活こそ人間の持ち得る最大の要素で  
あると考える。以上のような考文の為か私の趣味はクラシック音  
楽の鑑賞。その他絵画、彫刻等芸術一般についての鑑賞(こう考  
えてみるとこの段階では創造的……に欠けるようであるが)その他  
少々奇妙に思われるかも知れないが考古学の研究に非常に興を  
持っている。最後に自分自身はこの世では最高に幸福であると同  
時に最高に不幸な人間である。即ちロマンチストであると思っ  
ている。

坂田 哲 くて栗町のテツジす。京で生まれて京で育ちましてん。どうせ  
よろしゅうたのみまっさ。ほんならこれで自己紹介を終りまっさ。

笹原 伸二 言うことなし!

下前 明子 大阪大手前高卒。住所は大阪市内でも公園と堤防に囲まれた静  
かな所で、毎年7月20日(My birthday)にはこの堤防河畔  
で水都祭が催され真に環境に恵まれた所に住んでいます。

視力が左右ともに2.0という以外に何の取柄もなく、趣味は石  
口野球を見るのが好きで阪神タイガースのファンです。目下クラ  
スには所属せず。

杉本 憲昭 うまれた日 昭和22年6月10日 趣味、書くとクラブの勧  
誘がしつこくなるからやめる。レタリングの方面に少々足をつ  
こんでいる。邸宅、京都市内、工芸学部から南：面1500mの  
ところに位置している。本学の総合整備が早く完成しナイカナ?!

悩み多き年頃にもれず、つい最近一つの重大な悩みを抱いてい  
る解決出来ず日夜苦しんでいる。「すももももももももももも  
すももももものうち」の読み方はわかっているが、次の読み方が  
わからない。名(迷)答をお教え下さい。「ほとときすほとときすき  
すさすきすにまつまつわれははつねきかせよ」

末年受験する友が多いので遊びにも行けず、家の中でスラリス  
ラリ。

田井 正弘 昭和22年9月16日生れ。今宮高校出身。趣味は映画鑑賞、  
演劇鑑賞。映画では男優はステイプス、マックィーンで女優はオ  
ードリハップバーンからスザンヌ・スレシエット。演劇では鹿沢  
修、野球は南海、阪神のファンです。娯楽は高校一年の時に始



めましたパナンゴです。高校3年の時、大学へ入った時のために  
とマージャンを少し教えていただきましたが弱くていつも負けて  
おります。下宿先、右京区

多賀野 務 京都市上京区冊洞院通り榎木町上ルに住んでいます。趣味はよ  
く遊びよく学ぶこと。小学校6年、中学3年、高校3年順調に経  
過し、血織予備校に入学、1年の月日がたち、工織大に入学、1  
年むだ飯を食った為か身長割には体重がある。

高尾 泰正 昭和23年1月11日生れ。高津高校出たところ。勉強きらい。  
もっと背が高くなりた。野球、水泳、卓球、テニス、スキー、  
スケートが好き。音楽大好き。

武田 敏之 昭和22年2月3日生れ、19才。大阪府立高津高校学級出身。  
大阪土佐堀YMC A予備校出身。現住所洛西祭。趣味、読書、散  
歩、冥想にふけること。酒、タバコ、マージャン、パナンゴに一  
切興味なし。

めまぐるしく、人間が社会に振り回されているような社会におい  
て、せめて大学の四年間は人間らしく暮らせる様にお互に努力し  
よう。文芸部設立希望者は相談に来て下さい。

辰野 愚一 (本名 端 雪夫) 昭和22年5月20日生れ。住所は大阪府  
高槻市芥川1310。デビュー年月日、昭和41年4月15日。  
養成所 大阪府立愛田小学校。大阪府立船場中学校。高槻府立オ  
ニ中学校。大阪府立茨木高校

キヤッチフレーズ。丈夫で長持ち。表面はどっつきにくいが、  
対面には深い魅力がある。ニヒルなタソフィー。将来性あり。

谷本 建一 京都府立洛北高校出身。趣味は読書。大学に入れば、やっど一  
息つけて、好きな読書でも十分できると思っていたのに、毎日が  
忙しくて、好きな読書でも十分できると思っていたのに、毎日が  
忙しくて、とてもそれどころではない。授業終了が5時なのには  
驚いたし、授業中も眠くてやりきれない。まだ要領のわからない  
私にとっては、毎日毎日の大学生活がすぐつまらなく思える。  
それに女性が多くないのも大きな不満だ。

近本 啓三 小生 各陽工高電気科四十年卒。社中電気が嫌いになり。反  
科系を志さし、一浪して専攻文学部を受けたが、アツサリふられ  
る。趣味は読書(歌石、武部は小生の最も転倒せし作家なりけり。  
現代の作家は大キマイで何一、取らない)将棋(これは曾根田舎  
初段の自信をもっていたが最血始人とやって守いので認めが全然

・ 冴えない現状)

中川 皓通 大阪の四条寮高の出身で、生まれたときからずっと北河内に住んでいきます。元来スポーツが好きで中学時代からスポーツを欠かしたことはありません。この大学でも課外活動をやると思っていますが何か家から大学まで長時間もかかるのでそれに慣れてからにします。

長沢 次男 *Chain* の編集委員の仲間に入って見たものの原稿の集まりは悪い。従って発行は遅れてしまう。これじゃ高校の時の新聞部と全々変らないなあ——。皆さんの絶大なる協力御支援を頼う次才であります!! 協力してチヨウタイ *Chain* は良い機関誌、書いてドッコイショ!

中島 憲一 出身は東海高校。ぼくの美男子ぶりは定評があり、多数の映画会社から誘いがかかっている。美人の多い愛知県の出身故郷ではもてたが、こちらに来てから、いっこうにもてない。どうしたわけかパチンコをやり出して二カ月たったが、クラブからニューリズムに入ったことは今までに一度もない。きっとクラブは謎(おす)しかないんだらう。五音から「今晚どう?」と誘いの電話がかかっているのでこのへんでヤンピー

永田 実 出身は彦根東高校

中原 正美 私は女性です。本校の1回生紅5点の1点。4年間の修業(学業ではない……花嫁〇〇です)にすべてをかけて頑張るつもりです。ヨロシクネー

仁屋 充 昭和28年15日生れ。趣味はギター(うまくない)囲碁(目下修業中)水泳50m-38秒 100m-1分00秒)性格はいたって穏健。しかも消極的、禁煙ときたらんだ! 高校時代どこのクラスにも入らなかったのもその反動として目下2つのクラス、ワンゲルとE.S.S.に所属。現在義理と人情の板ばさみになり、時間の割り方を苦慮中。色々思いつくままに書いて来たが、自己紹介でこの様な固苦しい争ばかり言う自分のからから抜出し、積極的な男になりたいと思っています。「為せばなる。為さねばならぬ何事も為らぬは人の為さぬなりけり。」

藤本 弘直 出身は住吉高校・昭和27年12月22日生

現住所 京都市北区大將軍塚田町、京工繊大洛西寮内

藤原満寿夫 1947年10月 19日生

京都市立紫野高校卒。高校時代は野球部に短期間入部し成績はま  
ずまず(5割も打ったことがある)で京大受験の途に2年の頃休  
みで退部した。その後夜も寝ずに昼寝してカリ勉(ガリ勉までい  
かない)して、先ず京大をトツスにすべし、つづけて府大。そし  
てやっと工職に拾われたわけである。(工職万文)この苦しい人  
生を省みて——教訓;汝じの能力を知れ——を得る。  
現在はワッゲルに所属して気楽な日々を送っている。

福村 直樹 私の出身校は、高槻高校です。高校の時のクラス活動として、  
鉄道研究会に属し会計を務めていました。が今はもう鉄道に対す  
る興味は薄れました。大学に入ってからには能楽部と茶道部に入り  
ました。囲碁の方にも興味があり、目下勉強中です。麻雀もでき  
ますが、時間がかかっていけません。今洛西寮の63号室にありま  
す。同室者はまだ入っておらずわびしい一人住いです。暇があれば話し相手にでも来て下さい。

細江 長男 別に特に書くこともない。高校が日吉ヶ丘で別名自由ヶ丘とも  
言われ、それぞれ自主的になにごともしやっていた。たぶんみんな  
のように勉強をしてなかったと思う。1年の時には将棋を学校  
へ持って行きトーナメントで1位を決めたりした。2年でパチン  
コ、今もやる。趣味には「映画」「音楽」「将棋」「囲碁」「ハ  
イキング」等。いま音楽部へ行っている。

前田 高 住所は京都市中京区河原町3条上ル430番地  
生年月日 昭和21年9月2日 次男  
学歴 昭和40年3. 31 京都府立洛東高校卒業  
4. 1 関西文理学院入学  
41年3. 31 同校卒業  
4. 1 京都工芸繊維大学入学  
49年3. 31 同校卒業見込み

(大学へ入ったからには大いに遊ばたいと思っています)

松友 勝己 四条織高出身

本校を知ったのは本年1月10日(?)  
2月16日に願書を出し、受験を考えたのは3月17日、1期校  
発表で前後費がなく、一番ちがいで二期校にまわされたため、入  
学を決定したのは4月4日。6万2,000円(予備校)の出費不  
能となったため。入学後女子の多いのに驚く。まちがっては

いけない。これは通学の電車内のこと。工織の女子は得だ。需要と供給の関係は永遠の法則だからね。歩くのが好きだから、足に自身のある女子（但し太さのことではない）はC6684ノまで、定員になり次オメ切ます。定員未定。以上は分析化学の時間に書く。何のことかな？ 松本先生おしえてチョウタイ！！

松山 茂樹 昭和スス年7月5日生

洛北高校出身。当時西巻部所屬。（僕の誕生日はアメリカ独立記念日一理由日本は日村変更線まで1日アメリカより早い。）

肉が嫌いなので身長が伸びなかった。現在165cm程度。

森岡 茂男 昭和スス年5月1日生

滋賀県立彦根東高校出身だが、住所は彦根と大津の中間地域の田園都市。通学時間が片道2時間並くかかる関係上、好きなクラスに入部できないのが残念である。このごろはよく肥って少々困っている。白梅町の美容体標研究所でも入学しようかな。僕に向いたクラスがあったら紹介して下さい。

森本 昌明 僕は知識ある人なら知っていると思うが、四国の松山の愛光学園出身の者です。生まれは松山市駅から電車と船にだいたい1時間通られていくという小さな離れ島です。そこは言うまでもなくキヤンスが一応出来るから、お望みとあらば案内してあげる。田舎で育ったせいも少しのんびりしていて去年の大学入試の時、一期を受けたのみ。通るだろうと思っていた。ところが現実はずいぶんきびしかった。今年も一期は落ちた。むなしく代々木ゼミを後にして京都に来た。京都には遊ぶような所は少しもないと思っていたがぶらついてみると松山よりもずっとすごい所があった。少しばかり安心した。これからは今までやれなかった遊びに運動に大いにハッスルしよう。

山崎 健史 府立高校出身

山本 和幸 長田高校出身。暴力と麻薬の渦巻く国際港。兵庫県は神戸の産兵産県立長田高校。京工織大と秀文コースを歩んできた。きわめて善良ないい男だ。品行方正にして、常に冷静沉着。学力優秀。刻苦勤勉型。ただいまM.M.Kでいそがしい。入学試験はトツスで入るつもりはなかったが身についた知性と教養はどうしようもなく、トツスで入ってしまった（疑惑の声あり）。というわけで友産が私のことを評してミスター教養。趣味はPACHINKO。二に魚釣

り、このところ負けがこみ、横ばっかり。どなたか、良く入る  
PACHINKO屋を、教えて下さい。

柳内 和夫 長田高校出身

吉岡 邦文 昭和22年9月23日生れ、八幡高校(北九州市)出身

趣味はテレビ、映画鑑賞(西部劇) John Wayne, Clint Walker  
のファン、模型の鉄道(0ゲージ・H0ゲージ)  
面鉄ライオンズのファン  
下宿先 八潮(左京区)

王 孫宏 台湾省立台北工業專科学校出身、趣味は絵画、書道

住所、下宿; 京都市左京区下鴨芝本町49 若林方  
帰省先; 台湾省台北市廍化街 一段82番

PHAN-MINH-TAM  
ファン ミン タム

京都市東山区山科御陵池堤町28 The International Students House

趣味; 音楽(jazz) 卓球, 映画

国の住所; 235 TRUONG MINH GIANG SAIGON,  
SOUTH VIETNAM

VO-THANH-TUYEN  
オウ タン トウエン

京都市右京区梅ヶ畑高専所8 出口順三方

趣味; バトミントン。映画; (日本、米国) スポーツは全くダメ  
です。

今年は前回の園から日本にやって来た留学生三名を含む五十一名の大量の一回生を迎い入れた。今年も、一月も早く繊維化学科という“Chain”の一つの輪になってもらうために、先生同様に新入生紹介欄を設けました。

「今年の一回生は個人的に立派に意見を述べるが、クラスのまとまりがまだ出来ていない」と云われるが、まとまりなんて、互いに“状況”や“カンニングク”で助けられたり、助けたりしている内に出来てくるものだ。と云うもののやはりこの小さな学園において、一つのまとまり、そして学園としてか、まとまりをもち、「我ら一回生ここにあり」という気持を見せていただき

# プロムナード [6]

田中 隆 博

元来、私は散策を趣味としている。天気の良い午後等、ゲタばきで、一時間も二時間も歩き廻るのはとても快適である。高校生頃には、行動範囲を広げる為に自転車で郊外を走り廻り、時には、急いで余って自転車をかついで山道を登り、景観を求めた事もあった。が、しかし、大学生となってからはもっぱらゲタばきで“カラゴロン”と、そぞろ歩くのを常としている。

散策のコースも大体決まってしまうと、それも、平たんで、のんびりした雰囲気のある道が殆どで、ゲタばきで山登りという様な事は、最近ではしなくなった。

Chainに書かせてもらっているプロムナードの方もそれを反映してか、芸附という、私の世界では極めて平たんで、のどやかな野原ばかりを散策し、山道や、谷川沿いの危険な道は無意識のうちに避けて来てしまった様だ。

余り平たんな道ばかりを歩いていると、足が弱ってしまつて、山歩きに耐えられなくなるであらう。それで、今回のプロムナードは少し許り山道を進む事にした。所々で、ゲタばきで口登クライムシューズを試みた所もあるが、靴着はしなかつたつもりだ。

えらく前置きが長くなってしまったが、その山道の名前は、その道標に記されている所によれば、“大学生たる条件”であった。

「大学生たる条件は何か？」という問いに対して、先ず、その解答を呈示したいと思う。即ち、それは、次の二項である。

一 インテリゲンチユア たる事

一 若者たる事

この二つに尽きると思う。勿論、ここに言うインテリゲンチユア、及び若者という言葉は、単にその表面的な意味でのみ使用されてはいない。即ち、インテリゲンチユアとは、自分の目で物を見、自分の頭で物を考える事の出来る人間を意味し、若者とは、*heart* を有する人間を意味している。

〔1〕自分の目で物を見、自分の頭で物を考えるという事について

私は今、自分の目で物を見る、とは言つたが、物事をありのままに見ろとは言わなかつた。何故そう言わなかつたかという、その様な事は人間に

は極めて困難な事だ、先ず不可能と言って差し支えないからである。“ありのままに見る。”という物の見方は東洋の人間の理想像である聖人の物の見方である。勿論、人間は全て、聖人たる事を最終の理想として、それに近づく努力をしなければならぬが、決して完全に聖人の域に達するという事はあり得ない様に思えるし、又、その“聖人たる事、自体は、人間社会に於いては大した意義を持たない様に思える。即ち、聖人許りの社会が出来たとしても、それはまるで人間味のない無味乾燥な社会である様に思えるのである。つまり、聖人たる事に意義があるのではなくて、聖人たる事を目指す事に意義がある訳だが、それは別として、とにかく聖人になる事など到底出来そうにもないし、又、未完な二十文前後の私達大学注には、聖人等、およそ縁遠い存在である様に思われる。聖人になれないなら、勿論、聖人的な物の見方をする事、つまり、物を見るがままに見るといふ事は到底不可能に遠くないと論理を進めて当然だ。で、何故、出来ないかと云えば、物を見る自分の目は、常に自己の所有物であり、決して自己を離れる事は出来ない。つまり自己を置いてしか外界の事物を見る事が出来ない、即ち、自己を脱却する事が出来ないからである。自己が介在すれば、脳細胞に映じられる像は、自己の固定観念や生活過程から来る偏見といった変曲レンズによって自らを幾分歪曲され物にならざるを得ないという事である。こうした現象を、仏教は無明といふ言葉を用いて説明している。勿論先にも述べた様に、この無明を取り去り、あるがままの像を映せしめる操縦文を努力しつづけねばならないしそこに人生の意味があるといふ事は強調されねばならないが、それでも矢張り、その結果そのものは、大した意義を持っていないし、又その目的は決して達成される事は有り得ないからである。もし、“私は物事を見るがままに見る事が出来る”等という人があれば、それは全くの戯言という他はない。彼は単にそういう奇想に陥っているにすぎないからだ。

しかし、人間は、——少なくとも、大学生位の年令と頭脳を持ち合わせておれば——、自分の目で物を見るという事は努力すれば不可能ではないと考えられる。そして、この事は極めて必要な事だ。即ち、自分の目で物を見たが爲に、あるがままの姿からは大きく歪曲して像としてしか捕え得ないといふ様な事は、しよつ中起るだろうし、又、意識的にそうする事さえあるが、真に自分の目を通じて物を見た結果がそうなったのなら、それは何等責められる事はないと思う。何度も繰り返して来た様に、何人もあるがままの事物を見る事は出来ぬからだ。そして又、何人もあるがままの事物を見る事が出来ない故に、我々は自分の目で物を見る必要があるとも言える。

即ち 自分以外の他人も又、自分の目を通してしか、物を見る事が出来ぬの  
から 彼等によって表現されるそれらの“現実”は、しばしば歪曲されてい  
る。そしてそれは大抵の場合、どちらかと言えば、観測者の都合の悪い様に  
歪曲されている事が多いからだ。そして時には、悪意的に歪曲を行なって、  
他人を幻惑させ、他人の目をマヒさせてしまおうとする人達さえあるからだ。  
この様な悪意的に（又は悪意識的にではあつても）歪曲された“現実”を自  
分の目で見直すことなく、そのまま“ウノミ”にしてしまったとしたら、ど  
うなる事であろう。——— それこそ恐ろしい事であり、又、一番被害の  
大きいのは、そういうものごさな人達自身である事は言う迄もない。悪意的  
になされたのか、無意識的になされたのかは判然としない事が多いが、厂丈  
的に見ても、現在の社会を見ても、矢張り歪曲が数多く為されて来、為され  
ている様に思える。例えば ———、メンデルの法則。

勿論、エンドウ豆の色や、シワに関する遺伝の法則は実験的に正しい裏付  
が有り、確かに科学的で、歪曲されているとは思えない。（しかし次の様な  
言葉を耳にする時、私は歪曲を感じずにいられない。

“お前の頭は生まれつき出来が悪い。” “俺は生まれつき脳が弱い。” こ  
ういふ言葉の裏には頭脳の働き ——— 今、私はこれを文能という言葉で置  
き換えるように思う ——— が、メンデルの法則的に遺伝に支配されるとい  
う思想が働いている事は明白である。そして又、文能が遺伝に支配されると  
いう事は殆ど一般的に、絶対的に信仰されている。しかし、一体、これを信  
仰する人達の幾人が、自分の目で、その現実を見、自分の頭で考えて、確か  
にそうだと認めて信仰に移っていったかと考える時、恐らく殆ど零に近い数  
字がその答として得られるのではないかと思う。メンデルはエンドウ豆の色  
やシワに対する遺伝を研究したが、決して人間の文能について実験的に研究  
した訳ではない。そして又、何ぞ、人間の文能については触れていないだろ  
う。後の人達が勝手に拡大解釈しただけの話である。厳密な科学的思考法を  
身につけていない人文科学者やジャーナリスト達が、大体その責任の大半を  
受かねばならない。フラトンだったか、アリストタレスだったか忘れたが  
三木の尻池よりの自然発生を唱えた事等は、それと類似した人文系科学者の  
思考法の大きな欠陥を示す着例である。が、まあ、この事は別として、とに  
かく、法則という物には適用範囲が必ずある。化学法則に於いても、稀薄状  
態に対しては、極めてよく適用されるが、濃厚状態では、全然適用されな  
いという種法則が沢山ある。メンデルの法則だって、人間の文能という事に  
関しては、適用範囲外にあるかもしれないという事は充分に考えられる。



つまり、機天的な要素の方がずっと大きくて、遺伝的要素は全く無視し得る程に小さいものであるという風にも考えられるからである。実際、最近の研究によれば、数学や音楽の才能は、全く遺伝しないという説が、次々に支持されて来ているそうである。数学や音楽を挙げたのは、他は以って知るべしという意味も含まれている。

メンデルの法則が、その拡大解釈という点に於いて、歪曲されているという事は、それが、現在世界に於ては、主として、資本主義陣営に於てはより好まれ、共産主義陣営に於ては余り好まれておらず、*Anti*-メンデルの法則が好まれているという事実からも容易に理解されよう。階級意識を持つ者には、遺伝法則は適合の良い物であり、又、全ての面で完全に階級制を頼る者には、遺伝法則は其合の悪い物だという事は明らかだからである。

為に、ソ連では、逆に *Anti* 型理論が拡大されすぎ、どうしても理論の矛盾が生じ、ルイセンゴ学説が否定されるに至ったのは、つい最近の事である。遺伝法則支持の陣営に於いては、学説という形では、はっきりと歪曲されては無い様だが、ある意味では、ソ連の場合以上に有害に拡大解釈されている危険性がある。それは、市民の一人一人に至る迄が、信仰的に絶対視しているからだ。この拡大解釈の爲に、どんなに多くの人達が犠牲になって来た事だろう。工場の無気力、沈滞の本当の原因は、この点に大きな関係があるとは考える。無理もない事である。一生懸命勉強して、それでも前かつ志望の一流大学へ入れなかったという様な時、自分で物を見る目を持ち合わせていなければメンデルの法則を見直し、考へ直す事なく、自己の才能を遺伝的に否定してしまうという事。俺は駄目な人間で、生まれつき才能なんて持ち合わせてやしない……

彼が資本主義の犠牲となっていくのである。しかし、その責任の大半は、彼自身にあるという事を忘れてはならない。自分自信で目で物を見、自分の頭で物を考へ、彼説は彼説として見破る事にもものぐさであったからだ。我々、いなくとも我々大学生は、この事にものぐさであってはならないのだ。

政治運動に關しても言える事だ。高島屋の前で、政治運動に参加している女学生達。彼女達の輝きの無い瞳に出喰す時、私は嫌悪や悲慘、時には哀れみさえ感ぜずにはいられない。平和運動の資金調達、署名 *etc.*、彼女達の口には平和という二つの文字しか恐らく入っていないだろう。その運動の姿や、背景や、影響や、結果を自らの目で見てはいきいし、又、兎ようともしないであろう。彼女達の多くは、巨介達が、平和の推進にささやかな貢献を為しているという事の満足感のみが目的であり、又それが、彼女達をし

得る冊支持べしといり法則有頼う矛盾する。れいてい争と望せ法的なる。彼頭々。いるは衰達の姿をまをし

て、高島屋の前に立たせる動機になっている様に思える。女子大生を例に挙げたのは、特に彼女達の中にそういう物が強く感じられるからで、男子の大学生の中にも勿論、そういう連中が多人含まれているだろう。が、男子の場合は、そういう表面的な満足感から説明するよりは、エネルギー的な面から説明した方が理解し易いと考えるが、その点は、後に若者たる事についての際に少し触れる事にして、後は読者の思考に任せようと思ふ。

が、いずれにしても、自分の目で物を見て、真実の自己の判断により、政治運動に参加している人達は、かなり少ない様に思える。私の二回生の頃は工場の政治的運動は、そういう意味で極端な例であった様思う。デモを行う事を決議したり、他人がデモに行く事を求めてくれたり、又、政治問題に余り明かぬ人達に益、強引にデモを強いたり、又、デモに行けば、何の爲にデモをしているのか解るから、デモに行け、etc という言葉迄飛び出す始末であった。私自身は、余程の争の無い限り、学生の直接的、政治的動には反対の立場を取っているが、自分の目で物を見、真実の自己の思考の末に政治活動を行なっている人達に対しては、根本的には彼等の行き方に何等抵抗を感じない。意見としては反対の立場はとつても、行き方については支持し、尊敬さえする。しかし、生半可な、ないしは、全然考える事なく、全然自分の目を通す事なく、瓦礫に乗って政治活動のまね争をしている連中には、単に整肅を感じるのみである。何故なら、自分の目で物をよく見て行動しないと、とんでもない事になりかねないからだ。例え平和の爲にと頼つての行爲も、遂に平和破壊への間接的行爲となっている事さえ、あり得るからだ。

本能寺の変の際、信長を護った光秀の軍の中に、信長を信奉するが故に、光秀の臣下となった者が決していないと言えるであろうか？

或いは又、江戸末期の頃、最初、尊皇論と攘夷論とは結びついて、尊皇攘夷運動となった。然るに、終りに至って、尊皇論は開國論と結びついて、尊皇開國運動と変つていった。そして、この二つの運動の中で、多くの人達が殺されていった争であろう。そして、もし、その中に、前運動に於いて開國論者を切り殺した尊皇論者が後運動に於いて、攘夷論者を切り殺したとしたらどうであろうか？

自分の目で物を見ないと、とんだ争になりかねない。ところが、更にこれは困った争であるが、この自分の目で物を見、自分の頭で物を考えるという夙業であり、義務であるものを、自からはっきりと認識する事なく、その義務意識等、毛頭無いというのが、現在社会の一般的風潮である様に思える。即ち、我々は、ナチスドイツの暴虐の責任をヒトラーに、太平洋戦争の破壊

活動の責任を東条英機に完全に覆いかぶせてしまおうとしている。現在の政治問題にしてもそうだ。岸首相、佐藤首相、政治上の全ての責任は彼ら、被選挙権大臣、ないしは、治政者に帰してしまつて、悪口ばかり言っている。しかし、この様な態度程、一般大衆の無責任さと、同時に、インテリゲンチエアの誇りを棄てたものはないと思う。確かにヒトラーにも責任はあるし、東条にも責任はあろう。政治的過失があれば、岸にも佐藤にも責任はあろう。しかし、もっともっと大きい責任は一般国民にあるのだという事を忘れてはならない。岸や佐藤を送んだのは一体誰なのだろうか？

或いは、ヒトラーや東条に、彼らの思うがままの体制を作らせるに任せていたのは誰なのだろうか。

或る種の人達は、ヒトラーや東条、或いは、佐藤や岸を背後で操る圧力団体や経済団体に、それらの責任を帰する事がある。しかし、これも間違っている。それらの団体の行動を自分の目で見、自分の頭で考えて、それらの結末を看通出来なかつた一般国民のものぐさの責任が一番大きい。

しかしながら、自分の目で物を見、自分の頭で物を考えるという事は、本当は、ものぐさでなくともなかなか難かしいものである。何か或る事に対して、自分の目を以て見た「現実」が、多数の他人達のいう「現実」と異なる時、自分の「現実」を守っていく事は大変難かしい事だ。多くの人達は、つい、自分を信用せず、他人の「現実」を自分の「現実」に移し変えてしまおうとする。自分一人を信ずるという事は大変難かしい事なのだ。この事は、学問の様に厳密性の密度の高い分野に於いてもそうで、余りに人以上に高度の研究をやつた為、他人に理解されず、自分でこゑ。遂には、それに確信が持てなくなり、学問的に非常な大発見をしながら、悲劇的な自殺に死んでいった人達が幾人かいる。「無限論」の分野を切り開いた大数学者オトルク・カントールはその一人である。しかも、彼を死に促したアンチ・カントール派の代表人物が、これが大数学者のアンリ・ポアンカレであるという事案を見る時、私達は、如何なる賢人の目よりも、自己の目を信じねばならない事に気付くであろう。勿論、他人の意見に耳を傾ける事は言う迄もなく、重要な事であるが、最後の結論は必ず自分の目を通して、自分の頭で行くおねばならない。「量子論」が世に出た時の苦悩するアインシュタインの次の言葉が、彼が身を以て、そういう真の自己を大切にしている実例を与えてくれる。

「おれはオーストラリアの駝鳥みたいなものだ。おれは量子なんか見たくない。ヒルラティヴィストの砂の中に首を突っ込んでいる-----」

おれはいやだ。いやだけれども、おれにはこれに対抗する理論は一つもない。あるのはおれの指だけだ。皮膚の中に深く食いこんでいる意見を証言している弱い指しかない。

アインシュタイン程の人が、量子論の数学とその導く結論を理解出来なかった訳ではない。彼は、その式の語りかける言葉を聞きとれずに苦悩したのだ。彼が、とうとうその言葉を聞き取ったか否かは私の知る所ではないが、そういう数学の語りかける言葉を聞き取る迄は、真に自己の物として取入れてしまえない迄は、罔際という“数学は情緒である、”という言葉と比して見ると非常に面白い。

アインシュタインだからこそ、自分の目でそれと確信出来る迄、苦悩と対決したけれども、並々の人達は、大抵、表面的な数学だけを直って量子論マスターせり、*etc.* と得意になった事だろう。後の様な人達は、真に自己の目を通して、量子論を見詰めているとはいえないのである。思考力の練磨された人達でさえ、自分の目を通して物を見る事にもものごさである事があるのだから、一般大衆の中にこういう風潮が生じてても不思議な事ではない。がしかし、そういう風潮は少しでも無くしていかなければいけない。

リンカーンの時代よりも50年も昔のアメリカに於いて、奴隷が一般市民と全く対等の社会的地位に列する権利があるという事を何如程の奴隷達が考え得た事だろう。それどころか、その時代に、もし、突然、奴隷と一般市民との完全な対等性が実施されたとしたら、一番不審感を強く感じたのは、恐らく奴隷達自身ではなかつたらうか？

しかし、この事を一笑に付して済ましてしまう訳にはいかない。もう大分昔の事になってしまったが、望木子成婚の日の國を挙げての應呼の声を思い起こす時——— いわゆる戦前派に属する人達だけでなく、戦後派の若い人達の間でもそうであった———、私はこの國の将来に不安を抱かずにはいられない。それにも増して、我々大学生の先輩である一人のインテリゲンチエア候補、正田美智子さんが如何に若え、如何に結論したのか、不安でならないし、又出来るものなら、その真実に聞いてみたい気がする。

少し許り、話が長くなつてしまったが、とにかく一人の大学生として、インテリゲンチエアたる為には、自分の目を持ち自分の頭を持たねばならない事は解っていただけだと思う。若者たる事にないて、は、次回のフロムナードに書かせて載く事にして、今回は、これを筆を置く事とする。

〔参考文獻〕

敬離な綱渡り

大江建三郎

(19)

青春十誌	岡	栗	
春風夏雨		〃	
人間の建設		〃	小林秀雄
脳の話	時	寒	利彦
無限と連続	遠	山	啓

1965年秋頃の読売新聞（レイセンゴ学説についての記事）  
友人S君の手紙

以上

# 生命

1回生 長 沢 次 男

科学の最終の目的、……それは言うまでもなく、生命の謎を解くことである。生命のメカニックを解明することが人間の本質を明らかにするのだ。我々は人間の本质という人類未到の処女原に向かつて、それをすっぽりと包んでいる白いパールを取り除いてその本体をかい間見ようと、四苦八苦しているのである。こんな困難な問題が百年やそこらでは解決出来そうにもないのに、(又たとえそれを知ったとしても、人間の一個の生命を永久に生命としてこの世に長らえさせることは大層難しいことだと思ふ。)それを常に追回していなければ満足できない人間。もし神という人物が存在しているとしたら、こんな人間の様子を見て一人でほくそ笑んでいるに違いないだろう。(あたかも、教官が我々の見当違いの答案を見て一人で笑っているように。)

しかしながら人間の生命探求への欲求は、強固なもので、自然科学が生まれてから一世紀ほどで急速に進歩し、その速度は加速度的に増大しつつある。人間の能力もまんざら馬鹿に出来ないものである。

このような生命探求の研究の一つである。コアセルヴエートという溶液の実験の紹介文を読んで、この分野に全く素人の私が大いに魅せられてしまいました。そのコアセルヴエート溶液というのは、「ゼラチン、卵白アルブミンの二種の溶液を混合すると、今まで個々にあった場合は透明であった蛋白質溶液が、濁って来るのです。これは、まず二種の溶液がまぜ合されると蛋白質分が相互に結合して塊となり、これが大きくなり、蛋白質分子の数が幾百万にもなり、水から析出して顕微鏡でみられる液滴になるのです。この液

着は液体であるのにもかかわらず、その中に簡単ながら一定の構造と組成を持ち、それによって周囲の外界から重々の物質を取り入れるようになっていきます。入ってきた物質は液滴内の物質と化学反応を起すようになり、液滴内に新しい物質が合成されると同時に、分解の過程もこの液滴内に起ります。この様子は 現存生物体内に見られる調和ある合成と分解とは大分かけ離れたものではなく、無秩序な 非常に怪しいものなのです。勿論、それらの事は液滴の組成と構造によって種々の過差をたどりませう。ある液滴の中では合成が分解より早く進み、他では合成より分解が早かったりします。後者の様な液滴は非常に不安定で、もちろんこのような液滴は、短時間で消えてしまいます。これに反して前者の様な液滴はいつまでもなくなればかりでなく大きくなり、さらに分裂をも行うという事実があるのです」というのがその大体の要旨です。このゴアセルウエートの実験がそのまま生命の謎をどくには不完全なものです。僕が感心させられたのはこのような生命の基本型ともいふべき物がすでに知られていたという事実です。人間の生命に対する恐るべき執念の強さに驚き、僕もこのような生命について考えてゆきたいという欲望がわいて来たのを感じた。

とにかく、人間対自然では自然は途方もなくバカテツカイのでこの生命への *challenge* が成功するには、我々自然科学を志す者の最大の努力の積み重ねが必要なのだ。

## 拝啓 お姉さま

岡回生 佐 藤 光 則

お姉さまは某私立大学文学部で児童心理学とやらを勉強されている美しい女子学生。私は今春私立女子高校の二年生になったばかりの気だては優しいけれどオツムと容姿の点じゃとてもお姉さまにはかなわない一介の高校生。これから私のつまらない日記の様なものをたどりながらお姉さまに御意見を伺います。〔某月某日。〕朝目をさますときの感じは複雑。パチッとすっきり目がさめるなんて、あれは嘘。濁って濁ってどんよりしていてそのうちにだんだん上澄が出来てやっと飛れて眼がさめる。朝は何だかしらじらしい。怪しいことやいやな事が一ぱい一度に去来してやりきれない。朝は灰色、一ばん曇天です。私は朝に自信がない。畳巻のまま鏡台の前に座りばんやりと拝啓する。私は弱い点線だからマジメをかけたいと研でマジメに見

る。でも景色なんか少しかすんで歳の様にかえって美しく見える。きれいなものが淘汰されて美しいアクセントの強いものだけが生き残って目に写ってくる感じ。それにしても私の顔はどうしてこうすっきりしないんでしょう。自分でもイヤになる。特に髪の毛と目がいけない。何か生き生きしていない。きのう遊びに来た親類の三つの坊や、ほんとに美しい生き生きした目と髪の毛だった。私はちよつと嫉妬していなからいやになり恥しかった。ともかく鏡に向うたびにうるおいのあるいい目になりたいとつくづく思います。私がこんなつまらない事を思いながら鏡の前でこそこそしている時にお姉さま隣のお部屋ですっかり美しく化粧をされて肩からスマートにバックを掛けてごっそうと出ていかれました。私は今日も何かとり残された感じ。お姉さまはどうしてそう美しいのでしょうか。とじうよりどうしてそう美しくなれるのでしょうか。朝起きた時なんか決して綺麗じゃないのに三十分もして部屋から出てくるとほんとに美しくなっているらしい。決してお化粧して美しくなるんじゃない。本当に身体の中かから美しく生れ変わって出ているらしい。不思議です。私は鏡の前に長く居れば居るほどますます醜くなっていく様でほんとにいやになります。朝は憂うつ、朝は意地悪、朝はいつでも自信がない。食堂でご飯を食べる。昨日お母さんが買って冷蔵庫にしまっておいて下さったイチゴを今年はじめて食べる。イチゴの赤さから夏がやってくる。イチゴのあのスッパ味には何か胸が空っぽになる様な、うずく様な、くすぐったい様な悲しさがある。イチゴの片想いという曲があるけどそんな感じを歌っているのかな。ごはんをたべながら新聞を見ているとむしように旅行に出たい汽車に乗りたいたい気がしてきた。室塚よさようなら。私の家は室塚なんです。

そうこうするうちに登校の時間。今日は雨が降りそうなので先日お母さんにもらった昔の良き時代の傘を持ってゆく。この傘はお母さんが娘時代に使ったしるもの。私はこのエールドファッションな傘をちよつと得意げに持ってそしてもう想像の世界に入っているのです。こんな傘を持ってパリの下町を歩きたい。どこの街角からかものうげなアコーテオンの音色に合わせてシャンソンが聞えてきます。私はボンネット風の帽子をかぶり、ピンクの裾の長い袴の大きき刺した着物は悪い絹レースで編んだ長い手袋をして大きなつばの広い帽子には美しい紫のすみれをつける。そして深緑の頃にパリのレストランに入ってゆく。もの憂げに軽く頼杖して外を通る人の流れをほんやり見やっていると誰かがそつと私の肩を叩く。シャンソン、ワルツ。パリ、ローマ、ナポリ、ミラー、ウィーン、ジュネーブと舞台は転々して大団マンズ

昨日の日曜日西庭みたい。ああ、おかしい、馬鹿馬鹿しい。現実には古ぼけた雨傘を一本持っているだけじゃないか、お姉さま私はやっぱりまだ小供です。たわいない小供です。

人ごみにもまれて教室へ入ると皆人を元氣におしゃべりをしています。ガヤガヤ、女子高生というのはどうしてこうカン高くうるさいムードなんだろう。疲れて学校に着いた時だけにちよつと憂うつになりイライラする。私のお隣の席のヒサ子さんが無邪気に走り寄ってなにやがやと話しかけてきた。ちよつとイライラしていた私はツンとしてあまりとりあわず怒から外に視線をやって黙っていた。ヒサ子さんはちよつと心配そうな顔をして又何うへ行ってしまった。ヒサ子さんゴメンなさい、私は悪い意地悪な女です。自分だけの感情を何の罪もない貴女に押しつけるなんて、貴女の方がどんなに女らしいことか。全く無姓格みたいでそれゆえ一房すらしさで一ぱいだ。私と席がお隣りどうしだというだけで私はそんなに親しくしてあげているわけでもないのにヒサ子さんの方では私のことを「あたしの一番の親友です」なんて皆に言っている可愛い娘さんです。あなたの方がどれほど素直で愛らしく又女らしいことか。お姉さま私は今日また自分のつまらない感情の起伏を人にまで押しつけてしまいました。お姉さんなら決してそんなことなさないでしょうね。私は駄目な女です、それに私はゴスチヤというかポーズというかそんなものをとりすぎます。本当にキザなのだから始末に困る。「自分はポーズを作りすぎてポーズに引きずられている唾つきの化けものだ。」なんて言っただけが又一つのポーズなのだから我ながら恐れ入る。私はいつからこんなになってしまったのでしょうか。でも心ではつくづく「自然になりたい素直になりたい」と祈っているんです。本なんか読むの止めてしまえ。観念だけの生活で、無意味な、高慢ちきの知ったかぶりなんて軽蔑に値する。やれ生活に目標が無いの、もっと人生に積極的になればいいの、自分には矛盾があるのどうのってしきりに考えたり悩んだりしている様だがしよせんおまえは感傷だけさ、自分を可愛がって慰めているだけなんだ。それから、ずいぶん自分を賢いがぶっています。あゝいやだ、いやだ。

私にはあまり意味があるとは思えない授業から開放されて帰路につく。至急駅を降りてたんぼのあぜ道を歩き始めると本当にほっとする。大地はいい、土を踏んで歩いていると自分が好きになってきます。好きな歌を口ずかみながら歩いている。岸羊子という人の声、私大好きです。お姉さんの歌も決して悪くはないけど彼女には絶対かないません。奥村千尋とかいう人の「ゴメン茶シロー」という歌あれもちよつと他愛ないけど私好きなんです。



今日は夕焼が綺麗です。夕もやがピンク色。夕日がもやの中に溶けて にじんで、そのためにもやがこんなに優しいピンク色になったんでしょう。そのピンクのもやがゆらゆら流れて、木立ちの間にもぐっていったり、路の上を歩いたり草原を無でたり、そうして私のからだをふんわりと包んでしまいます。私の髪の毛の一本一本までピンクの光はそっと幽かに輝らして、そして優しく撫でてくれます。ともかくこの空は美しい。このお空には、私うまれてはじめて頭を下げたい気がします。私は今なんとも言えず幸せです。「みんなを愛したい。すべてがいとおいしい」と涙が出そうなくらい思いました。こんな気持ちがあるとき私は心からゴキゲンなんです。そっと草にさわってみました。私は美しく生きたいと思えます。かえるが二匹私の前に出てきました。一匹は私の足音を聞いてすぐにトボンと水に飛び込みました。もう一匹は何か、しばらくキョトンとしていましたが、先にとびこんだカエルの水音を聞いてあわてて後を追って飛び込みました。このちよっと間のぬけたカエルさん何だか私みたいに思えて何かホノボノと笑ってしまいました。お姉さん、私は素直ないい妹になります。どうか今まで通り可愛がって下さい。甘えさせて下さい。大人の私はお姉さんを時には嫉妬するかもしれないけれど小供の私はお姉さんにぶら下って甘えたいんです。そしてホノボノ生きたいんです。

(完)

(後記、僕の兄弟は弟と妹が一人ずついるだけでこの文章を書くにあたってさして参考になるものは無いんですが、多感な一女子高生になったつもりで、気おもむくままに書きつらねました。途中からはかなり一女子高生になりきれた様な気がしています。僕は兄も姉も無いので、無意識のうちに「美就で優しくしつかりしたお姉さんがあったらなあ」という気持ちが確かに竹いている様で苦笑を禁じ得ません。)

## 編集部紹介

4 回生 中村隆博、西山晶男  
佐藤光則、伊藤 明  
3 回生 平岡文二、小林新一  
2 回生 上田 勇、鎌倉伴和  
1 回生 長沢次男、下前明子  
中原正美  
審 問 金井政洋

## 原稿募集

内容形式 自由(但しこちらからテーマを擬することもあり)  
用 紙 所定の原稿用紙(編集委員に貰って下さい。)

# 留学生座談会

司 会 今日はお花がしいところお集りいただき、ちょうど5時に聞くことが出来、ほんとに有難うございました。

そろそろおなかもすいている頃ですが、時間ほどで終りたいと思いたすので、どうぞ気楽にお話し下さい。

まずお顔は拝見しているのですが、改めて簡単な自己紹介をお願い致します。

陳 僕は香港から来ました陳唯軍と申します。これでは日本にはすでに3年目です。どうぞよろしくお願ひ致します。

ガ ム 私インドネシアから来ましたムハマッド・サムザムと申します。陳さんと同じ繊維化学の3年生ですので、どうぞ皆さんよろしく。

王 私は台湾から来ました王孫然と申します。昨年10月今村研究室に聴講生として来て、今年繊維化学科に入学しました。

トウエイン 私はベトナムから来ましたボウエ・タン・トラエインです。繊維化学の1年生です。

タ ム 僕はフォンミンナムです。ベトナムから来ました。昨年の3月日本に来てから、ちょうど1年になります。

司 会 どうもありがとうございました。それでは皆さん日本へ留学されたわけですが、どうして日本を選ばれましたか。

ガ ム とくに日本は東洋であり、習慣もあまり変らないし、それに僕のおじさんからいろいろ話を聞いていましたから。

司 会 おじさんが日本におられる訳ですか

ガ ム おじさんは戦前に早稲田大学に来ていました。それで日本を選びました。

陳 どうして日本へ来たのかということはあまり考えていないのですが、一応日本の化学繊維は世界で知られるように発達しているし、皆昔僕の家は紡績の工場をやっていたけど木綿紡はこれ以上の発展は考えられないし、これからは化学繊維は大いに発展すると思いたすから、日本の繊維化学科を選びました。

王 前私はレーヨン会社に1年ほど勤めていた関係で、繊維のことに興味を覚じはじめ、また日本の漢字は中国の漢字と同じだし、日本

語は少しわかりやすいようでしたので。

トウエイン 最初はただ外国へ行きたくっただけで何も考えませんでした。日本へ来てから、日本の繊維が著名だったので、繊維大学へ入りたいと思いました。

司 会 日本語はどこで習いましたか。

トウエイン 東京です。

司 会 どのくらい学ばれましたか。

トウエイン まだ6カ月くらいしかやっていません。

司 会 日本の文字とか、授業など分りますか。

トウエイン いえまだはつきりと分りません。でも友達から聞いたりして

タ ム 高校を卒業してからセユニバーシティへ入れますが、今外国へ行くことが出来ますから、そのうえ他のいろいろなことも学びたいから、最初はフランスへ行こうとしたのですが、遠いし、習慣も違うので、同じアジアの日本を選びました。

司 会 皆さんの話を聞いていますと、やはり同じ東洋ということで習慣言葉にも共通点があり、また繊維をやるうとして、日本を選び、この大学を選ばれたと思いますけど、繊維の大学としては別に本学だけではないと思いますけど、何故本学を選ばれましたか。

陳 信州大学は留学生を受け入れませんし、東工大はあまりよくないと言われていましたから一期は受けず、二期校として農工大と、本学を受けましたが、京都工業繊維大学は繊維の大学としては日本で一番すぐれていると言われていましたからこちらにきました。

タ ム 僕も群馬大学と二つ受けましたが、群馬は小さい町ですし、京都のほうがいいから

司 会 それでは日本の学生と、皆さんのお国の学生との違いについてはどうですか。

タ ム まだ日本へ来てからほんの少しですからよく分りませんが、日本の大学は朝から午後まであり、それに昼の時間が短いようです。僕たちでは 昼の時間が2時間くらいあります。

司 会 昼の時間は普通ですけど、授業時間の長いのはこの大学くらいです。

それでは陳さんどうですか。

陳 そうですね。僕の考えはまちがっているかもしれませんが、とにかくノ、2回生はだいたい必要じゃない科目までならわされていま

すね、ほんと言えは、3回生になってから繊維化学に入るみたいです。4回生になったら卒論が忙しいから結局専門技術に対して勉強するのは1年と少ししかないのです。僕達留学生としてわざわざ日本へ来たのは大いに日本の技術をならいたいと思っています。それだから1年間の技術をならっても、理論的には分っているかもしれないけど、実際的には分っているのかどうか分らないと思います。もう一つは日本は繊維化学が発達して工場も多いが、化纖の工場としては一般的に見学させないのです。理論をならっても実際にやらないと、帰ってから何も出来ないのです。僕の考えでは、化学繊維が留学生に対して門をひらいているのなら、やはり化纖工場も一応門をひらいて実習させるようにしたらよいと思います。

今日本の化纖の技術はいいと思うのですが、どうしてそれを世界に教えないのでしょうか。

司 会 いやそれはどこの国にでもあることです。アメリカにしてもイギリスにしても、他のどんな工業国でも、自分の国で開発した技術はその一歩進んだところまで発達しないかぎり、他の国に教えないということなんです。

ザ △ 日本に来てから、いろいろな学生の行動を見てきたけど、賛成出来ないことがたくさんあります。たとえばいろんなことで授業放棄をやっているとか、デモをやるとか…もちろん僕としてはデモは反対しないけど、授業に関するデモは絶対に賛成できません。またエチケットの面においてももちろん日本とあちらの生活とは違うけど、あちらでは学校へ来るときサンダルなどはいてくるのはいけないし。

藤 教授でもはいてるしね。でもこれは日本の風習だからしかたがないと思います。

司 会 いろいろと痛い所をうかがれましたが、留学生の人は、日本へ来るとか他の国へ行く場合、一応試験がある訳ですか。

藤 国費だったらありますが、私費の場合は自由です。

王 台費では試験があります。一応水準点をパスすれば何人でも行けますが。

司 会 日本へ来てまず感じられたこと、まず日本人についてはどうですか。

藤 工子ケットが少しないと思います。それによっはらいが多いとい

うことです。物価はどんどん上がるけど、やはり安定しているから、皆が旅行に出かけたりするのだと思います。

ガム ストライキが多いです。

司会 ストライキが多いということはどういうことだと思いますか。

陳 僕の考えでは、自由だから、ストライキが起きるのだと思います。共産国でもこの国でもだいたいストライキをやれば、皆があぶないからやらないのだと思います。

司会 トウエインさんどうですか。

トウエイン 私の知っている人は皆親切ですけど、口だけとか、心からとかほとんどに分かりません。

陳 それから日本はストライキでカがあまっているようだけど、そのカを建設の方に向けたいいいんじゃないかな。道路はあまりよくない所もあるし、それに現代都市に水洗便所がない所があるとはびっくりしました。また、日本の女性は、ヒクに高校生ぐらいでは歌手が出ると、下でしゃーしゃーと騒いでいる。あれはヨーロッパの悪い風習だけを受け入れたようでよくないと思います。

男性はまだいいと思うけど。

トウエイン 私は日本の女性は好きですけど、男性はあまり *lady-first* (いやないですね)。

陳 そうです。日本は *gentleman-first* ですね。未婚の男性はまだ *lady-first* ですけど結婚してしまうと *gentleman-first* になっちゃうと思います。下宿のおじさん、おばさんを見てみるとよく分ります。

司会 この辺で少し話題を変えて、今ベトナムとかインドネシアなどで動乱がおきていますが、自らの国についてどうお考えですか。

ガム そうですね。日本の新聞に書いてあることは一部分誤解がありますね。僕はインドネシアの留学生の会長をやっていますから、いろいろ連絡をとっています。それで日本の新聞に書いてあること、たとえばスカルノさんのことにしても、反共のこともほとんど、日本の新聞に書いてあることは逆のようです。

司会 ベトナムのほうはどうですか。

タム やはり、日本の新聞で横暴のことを書いてある場合、あまり、真実ではないです。日本人はあまり横暴のことを知らないのです。日本人がベトナムへ来て、いろんな写真とか記事を報道しますが、そ

これは戦争中のことだから、あまり信用出来ません。誰かえらい人の言葉を聞いて信用してしまうよりしかたがないから誤解がおきるのだと思います。

司 会 新聞などで自分の國のことを知り、*home-sick* などにかかることはありませんか。

トウエイン もちろん帰りたいです。

司 会 タンさんはもう長く日本に居られる訳ですが、現在ではどうですか。

彼 もちろん帰りたいです。

司 会 そんなときはどうしますか。

彼 やはり自分が、なんのために日本へ来ているのかを考えたら辛抱しなければ

司 会 それでは日本へ来て一番困ったことは何でしょうか。

彼 困ったことは日本の物価がどんどん上ることです。僕がはじめ来たときから比べて半分以上上っています。僕らが日本で生活している費用で、香港では一家族が十分暮してゆけます。

王 やはり言葉が通じないということですか。

トウエイン 授業で先生の言うことがはっきり分らないことです。

タ ム やはり一番困るのは言葉です。授業でも化学、数学はいいけど、哲学、論理など分らないままにも単位をとらねばならないということですか。

彼 そうい科目はレポートでもいいけど、いくら書いても“可”しかないということですか。先生もほとんど読んでもくれないからだと思っうな。

司 会 それでは最後に帰国されてからどのような方向に進まれますか

彼 化纖工場が発達していなくてもやはり、自分で4年間、汗と油で学んできたことだから、それを生かして自分で開拓してゆかねばならないと思っています。

司 会 長い間、たいへん楽しくすごさせていただきほんとに有難うございました。今後とも皆さんのお國の技術が発展されることを期してさらに頑張ってもらいたいと思います。私達も分らない点、困難なことに直面した場合には、喜んで皆さんの力となってゆけたらと思っております。それでは今日の座談会はこの皿で終わらせていただきます。ほんとにお忙しい中を皆さん有難うございました。

後 記

去る4月26日新入生を交え6人のC科留学生を招き、Chainの主催で座談会が行なわれ、それを録音したのですが、紙面の都合で全部を記述することが出来なかつたことは深くお詫び申し上げます。留学生の皆さんには慣れない日本語で、自分の意見を平直に述べていただき、編集部員一同、この様な機会をもつことが出来たことに感謝致しております。

擾 乱

城 戸 弘 毅

仕争の手を休め  
此うやって静謐の中に  
雨塵を聞いていると  
僕は再び城の人生に舞い戻る

昼の忘我 夜の覚醒  
寂れも言わば城内の些事に過ぎないのだが  
慢心した夜の意識は昼の没却を  
眉に唾して凝視する。

だが内外一切の核心を胸中より抽出し  
それを納得ゆく言句で補握せんとする <sup>には</sup> ~~→~~  
イクシオンの苦衷を免れぬこと必定だ

あゝ ならばいつセルバイヤート程の諦念で  
巡る走馬灯に油を差し  
美女と饗宴に陶酔しきれ ~~※~~たらと思うのに

# 詩歌の思い出

相宅 省吾

去る5月1日(日)に繊維化学科同窓会「繊維会」並びに繊維化学科在校生の共催による繊維化学教室総合交歓会が初めて催された。これは、かねてより懇求の大学側が飛足し、学部統合問題も既に本部、教養部の新築工事に着手、繊維学部の移転は、昭和43年度に実施されることに内定している上、教室では資志教授が定年退官され、後任には近畿工大より林田葦世教授が赴任され、若干のスタッフの移動も行なわれた。この時に当り、色々と話題もあり、また卒業生にとっては思い出話に、就取の節に、また昔を思い出して球戯を楽しむのも一考かと思ひ、同窓会の形式を今回は特に型破りのスポーツを中心とした園遊会様式で、しみもめつたにないこの様な手マンスに、在校生をも減じえて、繊維学部のグラウンド一帯で賑々しく開催した。

当日行なつたスポーツは、ソフトボール、硬式および軟式テニス、ピンポン、バレーボール、弓道、囲碁で、中でもテニスコートは終日満員、また、ソフトボールでは、繊維化学教室教官と女子卒業生プラス在校生の試合は見ものであった。尚、模擬店の方は繊維会が「すし」「うどん」「ぜんざい」を、協賛したスキー同好会が「ビール」「おでん」「ジュース」「アイスクリーム」などを出して、朝10時より夕方5時まで、繊維化学科の先生方ほとんど全員、卒業生プラス家族約40名、在校生約30名(これは少々さびしい数だった)が大いに慕れ、飲み、食ひして愉快に時を過ぎた。

当日の会長挨拶の紙上録音：——

一言御挨拶申し上げます。本日は昭和41年度の化繊総会並びに懇親会を開催いたしましたところ、かくも多数御出席の栄に浴しまして、委員一同誠に感びに存じます。殊に、御多忙中のところ、まげて御出席頂きました青木専務長、特別会員の先生方、衣笠同窓会副会長、それに本学部取員の方々も多数御来臨頂き委員一同を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。

繊維会も年々歳々その会員数は増加の一途をたどり、約800名にも達しますます盛大になって参りますことは御同慶の次第であります。がしかし、その反面、その運営や事業の開催は、それに従つてむづかしくなつて来ました。そこで今回は例年の料亭での懇親会をやめ、在校生諸君や、二、三の好意のあるグループの応援を仰ぎまして、本日はここに準備しましたような園遊会形式の総合交歓を試みた次第であります。



また、特に繊維学部で開催しました理由は、御周知のとおり、かねてより  
寒寒の大学院修士コースが丁度昨日30日より発足いたしました。また、後任  
町田教授より詳細なお話を受け賜りますが、繊維学部の移転が更来年度の夏に  
実施されることに内定しております。お忙しい会員の皆様の中には、懐し  
の学園も、あるいは今日が見物めになる方もおいでかと思つたためであります。

次に本会は教授方の歓迎迎会をも兼ねさせて頂きました。即ち、本年3月  
末をもってめでたく定年退官されました貴志教授の後任には、わが国プラス  
チック成型の第一人者であります林田教授をお迎えいたし、それに加えて  
昨年には京都大学より助教として荒木・清造両新鋭先生をお迎えし、繊  
維化学教室は、先の松本・今村両教授の御着任と合わせ、一挙に充実しまし  
たことは、われわれ繊維化学教室出身者一同、誠に嬉しく存じます。退官さ  
れました貴志教授には今後とも御自愛の程をお祈り申し上げます。一方、御  
着任の先生方には、われわれ卒業生一同をも含めてよろしく御指導下さいま  
すようお願い申し上げます。われわれも及ぶ限りの努力をいたし、お手伝い  
いたす所でございます。卒業生一同になり代りましてお願いいたします次第で  
ございます。

さて、会員の皆様方には、このような時に当り種々諸議もありましようし、  
また恩師、旧友、先輩、更には衣笠同窓会副会長もお見えになっております  
し、更に、在校生諸君らが先輩の有益な話、特に就職についてのことなど、  
耳奇りな話を大いに期待しているようですから、ぜひともこの機会に後輩諸  
君に色々とお話し下さることを期待いたします。

丁度、繊維化学教室の中庭の藤の花が満開です。どうぞあちらの方へも足  
をのびして見て下さい。そしてまた、先生も学生もみんな一団となって、こ  
の好天の下、グラウンドで白球を追って、家族の方と子ども揃って愉快にお遊び下  
さい。お腹がすけば、おすしもうどんも用意しております。咽が乾けば、ビ  
ールやジュースも用意しております。とにかく今日一日を型破りに大いに祭  
しくで、皆様の思い出の一ページになることを期待いたしております。

最後に一言、本会に心よく御協力御応援下さいました本学部女子学生・卒  
業生の集い、「五月会」および本学ヒュッテ建設のため努力されている「ス  
キー同好会」の皆様にも本席を借り辱く御礼申し上げます。

ありがとうございました。 おわり

このような催しは、運営面をよく検討した上で時折開催することは大いに  
有意義と思うが、これはただ筆者のみだろうか。

# 繊維化学教室

## 総合交歓会について

織化会々長

松本喜代一

私が気まぐれな旅に出るとき、あるいは静かな夜更手近の詩集や歌集を取り出して、気のむくままに読み出し楽しい思い出にふける習慣になったのは何日頃からであろうか。

中学や高等学校時代にはこの様な習慣はなかったように思う。その頃は、部生活（現在のクラブ活動）に熱中するあまり、また文科の学生のすすめる大部の翻訳小説を分らぬながら読んで只その満足感に溺れていたように思う。

大学に入って気ままな下宿生活をするようになりそれまでの集団生活とは又別の環境になって一人で山旅をすることが多くなった。諸し相手の代りにとポケットに入れた青藤茂吉の万葉盛歌の中に沢山の美しい歌があった。そして之等の歌を美しい溪流のほとり、又草原の上で、又深い樹林の中で拾い読みするのが山行の楽しみの一つとなった。

### 額田女王の歌・およびその返歌

話さず榮野ゆき標野ゆき野守は見ずや君が袖振る

紫のにはほへる妹を憎くくあらば人妻ゆえにわれ恋めやも

の朝べの色彩の美しさやそれに現わされる古代の生活（これが象徴の一つといわれる壬申の乱（当時この歴史は全くタブーに属して全く知らされていなかった）等歌を讀して推古、白鳳の時代をしのんだことがあった。

今名神高速道路がこの歌の舞台の瀬生野を真直に通り抜け、春は紫の花が野面一杯に広がっている。また休暇になるとよく信州の戸隠の神主の家滞在した。勉強する積りで持って行った本は一切手につかず、牧場に出かけた山登りばかりして居り、読むといえば文学書や詩集であった。ランボー、ボードレー、リルケ、ヘッセ等の翻訳も読んだが残っては居ず、最も楽しかったのは三好達治の春の鴨（湖蟹船）という詩集であった。

### 峠

私は時に坐っていた（中略）

私は考えた。ここにこうした峠があるとすれば、ここから眺められるあの山々のかとした一つの巖の高みにもこと全く同じ様な小さな峠があるだろう。これ等の峠の幾つかにも風が吹き、雫や露が降んでいるだろう。ここにも私が坐っている。そして私は足もとに点々と咲いた白い小さな草花を眺めながら

これ等の新鮮な気歌に接しそれに導かれて立派な鑑賞者、津村梧夫等の若い詩人達を知った。

当時学生生活は徐々に戦いの重苦しい中に入って行ったが、卒業する時になるとその破局も決定的になった。卒業後一年太平洋戦争は始まり私達は、技術士官として海軍に入隊した。横須賀の砲術学校での訓練中本を誦むことは許されなかったがこっそり持ち込んで、日曜日夜度の外れの海辺で読んで本があった。在りし日の東洋詩人達、近代絶唱集等、活字に載っていた時でもありむさぼる様に読度も繰返して読み続けていたが、矢張り心に残っているのは日本の歌であって中国の詩を理解出来るには未だ何か物足りない様な気がした。

戦時中は、激しい実験等に明け暮れたが、世の中が苛烈になればなる程美歌になぐさめられることが多くなった。尾崎喜八の高景詩抄もその中の一つであり、今、取り出して見るも焼け払われた東京を出て多摩丘陵の洞窟住の日々が慰み出される。

#### 夕の泉

君から飲む、目の暮い山の泉よ - - - - -

存分な仕事の一日の後で、私は身を遣い荒い展望の唇を君につける - - - - - 戦いはみじめな敗北に終り気が抜けた様に故郷に帰って来た。就職する気もなくそのまゝ元いた大学に舞戻った。そして戦後の荒蕪をのがれて、よく山や温泉に出かけた。ある年白馬に登り浅間温泉で読んで雑談に

花は辭苔の上に落ちて春亦春 - - - - -

と言う中国の女性の詩を讀んだ。作着の名も訳した人の名も忘れてしまったが - - -。これは恋人に嫁いだ若い女性の詩でその落ち着いた情懐がとみに感ぜられる。これを機縁として吉川幸次郎の解説する中国の詩に唐宋時代の格調高い漢詩が受け入れられる様になったのも一つの喜びである。

近頃は若い頃色々な本をあさって読み続けた万葉集より古今集、新古今集の技巧に溺れた優婉歌の方に心が引かれるのは一体どうしたことであろうか。

夕されば野辺の秋風身にしみて鶯鳴くなり深草の里

(千載和歌集 破成)

京都に長く住みつき王朝時代の残り香に知らず知らず慣れ親しんだ為か、またいよいよ私にも老いがしのびよって来たのだらうか、これも仕方がない。体力の衰えに応じた詩歌を採り出しては楽しんで行きたいと思っている。

コロ  
い 白衣  
の 茶色  
大 切に  
が まし  
度 制  
を 経る  
た。 そ  
そ うで  
シ を 必  
巧 の 扱  
鎌 倉 時  
。 。  
前 回  
読 ん で  
若 い フ  
康 的 な  
て い る  
性 よ り  
が 通 じ  
切 つ た  
を 書 き  
日 本  
多 い よ  
物 に 対  
中 で 泳  
た と  
値 ある  
と。 過

# 育ち行く味わい



四回生 定田美樹子

コロコロ……と髪の上で糸巻きがころかり、入学当時生協で買った、新しい白衣も、四年目を逾えてボロボロになっている。何だか知らぬが、葉島の茶色いシミが目立ち、繕つても切のない穴が点在している。一日一日を、大切にすごして来た京住いも、あと三百日余りで終ってしまう。そんな未練がましい心が、過去三年間を振り返えらせてしまうのです。

蔑視されてしまっている物事を、見て感じる事しか知らなかつた私が、年を経るに従い私の体の中に物事を取入れ、育て、それを味わうようになった。そしてその物事が必ず持つている律に大きな値を置き始めています。そうですね、丁度音楽というものが五線符の上でダンスするオタマヅマガシを必要とし、何分の何という拍子を必要とする如く、茶道というものが、巧の振い方、所作があつてこそ成立つていくごとく、又御茶というものが鎌倉時代の禪を背景とした茶室、茶器と人の動きという律を必要とする如く……。“形なくして、心あらず”とでも言うのでしょうか。

前回のchainに、若き後輩が、茶道を“大人のままごと”とされたのを諷んで、御茶を愛する私は、淋しさと同時に、少々反撥を抱いた次第です。若いファイトマン達の端正な理性や、そこから生まれる理屈の押しには、健康的な学生を感ぜますが、そのような見方に、深い味わいというものが欠けているようです。何しろ私は、規律を越えた老いた経験者の一言を、若き理性よりも価値あるぐらいに思っているほど古い人間ですから、私の物の見方が揺るるか、どうか疑わしいものですが、大学生活のスタートを、茶道部で切つた私の、御茶に抱いている味覚、そして人に抱いている味みたいなるのを書きたいものです。

日本古来のものは、それを伝える人々の間に、確かに形式、誇張、矛盾が多いようです。そして、現代の若者は、とにかくそれらに反骨を示すようです。物に対する反骨精神は貴重なのですが、単に蛮勇の如く、自分の反骨精神の中で泳いでいるのもどうかと思います。

たとえ、現代における茶を学ぶ人の中に、何代目某々齊作の茶村だから価値ある、これは誰々の御茶碗だからどうの、軸は……の愛好したものでも……と、過去の栄華を形式的に守っている人があつたところで、そんなものに引

つかかつてはいけないのじゃないでしょうか。自分の感覚で知り 自分の心に訴えたいものです。そこに、正しい意味での批判なり、批評なりが誕生するというわけです。

御茶には 茶室が必要であり、その茶室にあった道具と人か必要です。そんな場所に はじめて利休のつきつめた茶道が成り立つものなのでしょう。ところが花嫁修業の一つに成り下った現在では それらの部分岳が バラバラに価値づけられているから、実に不愉快なほど滑稽なものになってしまうのです。昭和の世で利休の味を知るのは百分不可能です。でも、たとえ周りの茶人が どこに茶の価値を述べようと、それに動かされずに、御茶そのものに没るべきです。言うすれば どうしてこのような茶室が必要で、茶器が尊いのかわかるはずです。

利休作 利休愛用などという呼名を知らず その作品そのものを知ってほしいのです。今は利休と言うと、単に茶道の類であり、神様です。けれど、利休本人にすれば 茶の器に生き、茶を本当に味わって来た人です。だから現代の茶人にとって その茶器や、軸に価値を感じて、あたりまえみたいなものです。又実際 各器と言われる茶碗で御茶をたててみると、その色、形といい あの茶の若草色の細かい粒を生きさせるだけの力を持っています。又 御茶室にしても、そこにセットされている茶器とピッタリ来る味わいと言うか ムードがあります。多分これらは 過去の時代(御茶の盛んな)の御茶に対する心の回まりみたいなものです。

現代に生まれた私達は 過去の茶人に帰って その茶室で 茶の精神に着く事は不可能かも知れません。けれど、何か感じる事は出来るはずです。だから私も、現代の茶器より過去の茶器を尊びます。茶は過去にもまれたものなのですから。

しかし 私達が 利休の茶を学ぶ事は、決して時代錯誤ではないのです。その為 過去の茶室で 過去の御手前をするわけです。丁度魚が木を必要とする如く、茶道には過去が必要なのです。そんな形の足つたところに初めて心が入ってくるのじゃないでしょうか。ですから、もしビルディングの壁上のベンチにすわって 御茶手前をしろと言われても、イヤ、と断わると思うのです。するべきところでしてこそ茶道なのでしようね。

茶道が日本の芸術だが 精神だか知りませんし、そんな名称はほしくありません。茶道そのものであれば良いし、御茶人の芸術であり、精神であればいいのです。

御茶のどこが良いかと言われても はつきり説明のいくものじゃありません

んが  
でも細  
心を感  
です。

私は  
はでき  
かとい  
ら二十  
そして  
も、部  
です。

ビー  
い人に  
それを  
のです。

一寸  
て 母  
育てて  
とだて  
ように

— 喫  
自分を  
聞き入  
ずとも  
の恋人

御茶

て い  
これ  
のじゃ  
砂漠

人が 茶器の運び方、人の動き、そして茶室、茶器のワンセットに 初心者でも細薄のいく合理社があり、味があるという事です。そして形を覚えて心を感じはじめる頃になると、妙に茶室のものに酔っている事も魅力の一つです。

私は別段、茶人でもないし、茶を学んだ者じゃないから理論的な説明はできませんが 真に御茶を愛する一人です。小学校に入学するかしないかという頃から離れの茶室で おばあさんと向い合つて御茶を楽しんで頃から二十一才に至るまでに 私なりに御茶の価値や味を知つたつもりでいます。そして、たぐえ鉄筋のアパート住いをして、巾着をはいて掃除をしていても、部屋の前隅には 茶器を置いて、年に一度ぐらいは御手前をしたいものです。

ビートルズファンに ベートベンがねむいのも同様 御茶を好きになれない人には堅苦しく 無価値な清濁なものかも知れませんね。極端に言えば、それを知らぬ人は それに対する好嫌を言えても批判を論ずるべきじゃないのです。物の味は その人の心の中で育つていくものなのでしょう。

一寸蛇足になりそうですが 人の触れ合いもそんなものなのです。生まれて 母の乳房にしか及つく事から母の味を知り 家というものの中で自分を育てて行く。そして自分がやおらできかけたら異姓と結婚して今度は子供を育てて行く。死ぬまでには “叔父の夫婦” という立派な称号をもらえるように、互いの世界を味わつて同化してしまふ。……

— 喫茶店で及かける若い男女に一言、なんだかさか人に自分の価値を訴え自分を相手に教へ ありとあらゆる知識の発表会をしている男性と それを聞き入る女性。あなた方は未だ形のできぬ恋人、今に形ができたなら何も言わずとも目で語りあえる心の世界に入つて行つて下さいよ。それでこそ一人前の恋人なのだから。—

御茶に限らず、何でも自分の心に芽ばえさせ、それを大切に育てる。そして いつの間にかその味わいの中に自分の心身を合わせる。

これからの人は 自分の環境や世界をある程度建設していく気持が必要なのじゃないでしょうか。

砂漠以上に乾燥しやすい現代なのですから。

# なかにわ



## 貴志雪太郎教授御退職

永年繊維化学教室教授として本教室の蛋白質繊維化学講座を担当されて内容充実に献身的な努力をされ 今日繊維化発展の基礎を確立された貴志雪太郎教授は本年3月をもって停年御退職されました。

現在先生は奈良の新塚山女子短大の教授として御活躍されている。先生いつまでもの御健康と御幸福を心からお祈りする次第である。

## 新任林田進世教授

この度貴志教授の後任として理工大より林田教授をお迎えした。先生は大正7年熊本のお生まれ 丘高から名大に進まれ、戦時中は陸軍技術中尉、戦后、創設以来大阪市大で御研究を進められ、理工大を経て本学に御転任されました。御専門はプラスチック工学で、大学院ではポリマープロセスを教えておられる。学生時代やつたという剣道の腕前は又段とのこと。またそぞの父親として家庭では良き親父ぶりを発揮されているらしい。

## 新任清剛助教授

このたび京大繊維研から今村研究室に清助教授をお迎えした。先生は昭和8年2月26日京都のお生まれ。以来ずっと京都で育ち、山城高、京大京大大学院を御卒業され、昭和27年12月にバニリン酸繊維に関する研究で工学博士。現在 Poly エーテル・エステル繊維、その他 conjugate 繊維の研究を進められている。明かるい活潑なお人柄で、若さにものを言わせ山歩きなどを好まれ、北山などほとんど歩き廻られたとのこと。

## 新入主歓迎コンパ開かる

去る4月28日に中華料理店「采々」にて新入主歓迎コンパが催された。繊維化教室からも今村教授、松本教授を招き、また3、4回生の出席もあり、約100名近く集まったとか、今年1/2回生もよく飲む連中がいるね、この分ではハードとやらも出足をすぐおれ、さぞかし酔ったことだろう。ともかく二織バンザイで幕を閉じたこのコンパもますます成功といった所だよ。

うた  
園  
時  
ル、  
一  
6  
き  
祭  
飾  
大  
が  
池  
し  
あ  
コ  
か  
り  
生  
一  
も  
な  
○高  
○人  
○台  
○登  
○有  
○(村)

うだ。

### 園遊会隔かる

去る5月1日繊維学部カランドにおいて、織化会が開かれた。古き古き時代を偲んで集まった先輩達が昔の思い出話に花を咲かせ、ソフトボール、テニスにははりきっておられた。中には無関心な連中もいて、工織ムードをもりかえしていたようだった。

### 6月祭開催の動き

学部統合問題も一段落着き、来年は繊維展開催の予定で、繊維学部も月祭は今年で最後の様子である。その最後の学園祭を学生の手くはなやかに飾ろうというところから、今年は賓客その趣繊維展で行なえないことを盛大にやり学園に花を咲かそうとの意図らしい。とにかくやるとなれば全員が協力して精一杯のことをすべきである。

### 池のゴイ

今年も3年生の化工の実験で終日池のまわりにはむろしている。暇つぶしに池に小舟を浮かべたり、石を投げたり、昨年の今ごろは、今村君の心ある4年生が掃除してくれたが、今じや初夏のすみきつた青空をながめ、ゴイ心にひたることも出来ないよ。わしもこの池に入ってから何年になるか忘れたが、いろいろな人の話に耳を傾けていると、ほんとにいい人間ばかりだ。でも思うんだけど、やはりこの学科という小さな世界でさえも1年生から4年生までの織のつながりというものがないようだね。ここらで一つのchainとかいう機関誌もあることだし、何か織化のファームのようなものでも作ってみてはどうかだね。皆が賛成してくれればおしは顧問にでもなつて、水面に浮かび上り、参加させてもらうよ。

## 繊維化学教室スタッフ一覧

- 高分子化学講座……町田誠之教授・荒木幹夫助教授・成田 宏助手
- 人造纖維化学講座……今村力造教授・清波 剛教授・松本季代一助手
- 合成繊維化学講座……相宅哲吾教授・山崎 隆助手・北尾敏男助手
- 蛋白質纖維化学講座……林田達世教授・武内民男助教授・高橋重三助手
- 有機合成化学講座……内野規人教授・後藤四男助教授・加藤頭野助手
- (特)紋蒸分析化学繊維化学講座……松本辰教授・佐竹正忠助手・中川吉弘技師員



## 研究室紹介

# 相宅研究室

当研究室は、合成繊維にとって必要欠くべからざる研究を行っている。一人一人の卒論テーマを聞いてみると、良くわからないが、繊維に關係ありそうな研究である。今年の卒論生11人は、今までの先輩達とは、打って交って、本当に真面目な、大人しい11人だと大変評判が良く、相宅先生もさぞ鼻が、高い筈だろう。その為か、相宅先生は、学生の行動に注目し、一ヶ月にもならない内に、2度もお々のへそを狙った程である。

平均、雷は高い所へ落ちるはずだが、背の高低にかかわらず落ちてくるようだ(クワバラ、クワバラ)。

実験の方はと云えば、例年どおり、実験カーとバリバリ実験を開始し、他の研究室の注目の的であるが中にはワイワイ　キャー　キャーと云うだけで全然　何も出来ていない奥ゆかしい者や器具破損に情熱を燃している者もあるやに聞く。大器晩成型であると目認している我々は、体力増強の必要性を感じ、昼休み等に御大相宅先生を始めとして、テニスをしている。

その内に、野球、卓球、スキー等種目が増えるだろう。じゃー、一体いつ実験をするのかな??

次に相宅研のスタッフを紹介する

相宅教授

酒、煙草は飲みません、麻雀もやりません

先生は、学生時代に一体何をしていたのだろうか?　不思議だ。

山崎助寺

京大化研での成果が、テニスだけでない為、最近は大変忙しい。

実験と当研究室の2人のお嬢さん?　管理の為、赤い灯青い灯から遠ざかっているとかく知らないのは　庵だけかな?)。

北尾助寺

昨年は　みっちり京大で勉強し　帰ってくるなりバリバリ実験を始めた。(ビックリしたなあ、もう!)

スポーツ万能で　いくら忙しくても　テニス、野球等をする

金井さん

アフリカからの留学生だとかいう、ちまたの噂を本人は、大変気にして

いますから、コシゴ注意して下さい。

原 さん

我々の先輩である。永久献取したのに……。

見た感じでは、22,23才の感じだけど、あんたどう思う？

次に大学院生は

村岡さん

彼が、できるのはスキーだけではないんだ。

相宅先生直接の管理下におかれる事になった由、後って、そんなに悪い事したかなあ？ いや 何もしていないんだよ

片岡さん

もう2年も勉強するとは、相宅研のどこか気に入ったのかな？

現在、下宿を捜しています。彼に良い下宿を。

杉本さん

洛星高校、芝浦工大出身の山男です。現在、スキー同好会に入って活躍中です。(雪もないのにねえ)

船尾嘉穂さん

就取から急転、大学院に入院した。4回生管理係

最近、先生に「高分子学会で発表せえよ」と云われ、心臓の毛を敬えている。

ウィンさん

大学院にパスしたので、ビルマに帰らなくて良かったとか。

日本でまだ勉強したいそうです。(見ならおうかなあ……。)

最後に、優秀なる卒論生11人は

石田 功 (膳所高出) ポリマーブレンド

良きにつけ、悪きにつけ出席番号/番の被害をこうむってきた。2年生の時から始めた弓道は、かなりの腕だとか。役取、建設省

出井健雄 (西京高出) アクリロ・ニトリルの重合

4回生にしては、若干色々な事を知りすぎている……短所。

実験器具を、いつの向にかそるえる(この間、俺のピーカーがなくなったのも……)。……長所。役取、文部省。

伊藤 明、(嵯峨野高出) ポリエステルの重合

昨年は、繊維展実行委員長として活躍。委員長役にはうってつけの人物である。欠点は、守が大変上手である事。陸上で長距離を走っているそうだから、運動神経は……。役取、郵政省

稀葉英彦 (洛東高出) ポリエステルの紡糸

校長先生の息子にしては、出来すぎであろう。山科刑務所の道所に彼の  
家がある為、何かと便利だそう。役職、スポーツ相。

大原正樹 (冬北高出) アミノ酸の重合

一見 お兄さん風で気も弱そうに見える。しかし、実験となると大胆に  
なる(危険だという事を知らないんだから)。

川崎善歌 (市尾崎高出) ポリエチル繊維の物性

何んだ、かんだと云いながら着実に実験をやっているらしい。女同生に  
なり、下落をやめず期間近くかかって学芸へ通っているファイターであ  
る。役職 通産省

鬼頭尚子 (岡山朝日高出) ポリエチル繊維の研究

彼女が実験室に居ると大変目立つ(美人かつて? 実物を見ろよ)。ど  
にかく、実験室がにぎやかになるから。役職 大蔵省

日下部蓮也 (鴨汗高出) ポリウレタンの重合

赤子で上げ 女性ばかりである。なる程、良くしゃべるはずだ。さみし  
かり屋で、ロマンチストである。役職 企画省

西山昌男 (筑紫丘高出) エアミノプロロン酸の連続重合紡糸

大変良い人間であるが 玉にキズは あつ/色が黒すぎてキズが見えな  
い。これは 又失礼。役職 外務省

橋本辰幸 (神本高出) 漆融紡糸における動力学

碁、将棋、麻雀等マー鹿何でもこなし、時に古文書を、辞書を右手に、  
グラスを左手に。野球部のエースで女番打者である。役職 総理

山田耕作 (勝山高出) ポリエチル繊維の物性

趣味は音楽。作曲はやりません(念の為)。最直は、化研へ行く日数か  
多い。あつこは 女性が多いからなあ! 役職 厚生省。



風  
かな  
方か  
文獻  
町  
現在  
果の  
究室  
先  
ツを  
化研  
みる  
大  
究  
こ  
い  
はな  
神々  
置か  
寺に  
けに  
の優  
くそ  
は  
先見  
る坊  
いる  
ンバ  
造の  
次

# 町田研究室

風かおる五月 この言葉のもつイメージの如く、今や当研究室には 爽やかな風が溢れ、活気ある空気に満ちている。と云うのは、今年から大学院の方が加わり、非常に精熟を持って研究に取り組んでおられる。我々卒論生も、文献調べを一応終えて、本格的な実験に取り組もうとしている所である。

町研は二階にあり、風通し目当りの良い明るい研究室だ、ここで研究され現在多方面で活躍されている先輩の数も百名近くに及ぶに到り、その研究成果の優秀さと相伴つて、正に大地に深く根を下した大木の感があり、町田研究室の名を不朽のものとしている。

先生方は アカホミックで筋度正しい町田先生を筆頭に、戶外でのスポーツを勤められ、御自身もテニスの名選手である冨々しい荒木先生、五月から休研の水渡研究室で研究されている親切で真直な成田さん（実際、去られてみると、その有難さが分るよ）である。

大学院の方は 真面目で大人なしい岡本さん、男前で明るい神原さん、研究熱心で精悍な松尾さん、以上の方々と、皆真面目で勤勉な方ばかりである。

このような秀れた教授、立派な先輩に囲まれた素晴らしい環境のもとに、多にファイトを振い立たせている次第である。併し乍ら、そればかりが能ではないので、スポーツ、レクリエーションにも、若いエネルギーを発散させ、神々と余裕のある大学生を送りたいと考えている。我々の中には、個性味豊かな人間、一見真面目そうでも不真面目なのが居たりして難女である。妙心寺に下宿して女人禁制など嘆いている松原（何の爲に下宿すんや、人は見掛けによらんなあモウ）、生粋の河内ツ子だが滅多に世を表わさない派己、その優しい態度は何故か成田さんの若かりし頃を思わせる西岡、日頃信心心厚くその御利益あつてか、五千円という大金を落してしよげている柳田、二階は、便所に遠いと云つて、下の便所の隣りを研究室に選んだ早野（彼は実際、先見の明があつたよ）、自ら“ええとこの子”と称して羽振りをかかしている坊ちゃん肌の飯巻大将若林、女の子にチマホヤされて何時もニコニコしている早川、目下、町研でハンダ付けを研究している渡辺、以上の錚々たるメンバーである。吾輩は一見にしかず、そう遠くもないし、一眨眼でも有れば遊びに来て下さい。お茶でも御馳走しましょう。

次に各人の研究テーマを紹介しておく。

(大学院)

岡本 健

セリウム存在下でのビニル重合

神原敏之

*Itaconic acid* の *allyl mono ester* 類の *Cyclic polymerization*

松尾圭造

立体異性単量体の重合に関する研究

(卒論生)

辰巳宣利

石油樹脂のオゾン酸化を利用したグラフト共重合

西岡 健

石油樹脂のジアゾニウム塩の分解ラジカルによるグラフト共重合

早川 修

*Acrolein - Acrylamide copolymer* の利用

早野政

*Polystyrene diazonium salt* と *Osqone* との *Formazan*

松原 隆

*Polyethyleneimine* と *Epichlorohydrin* との反応

柳田佑二

各種アミンとエピクロルヒドリンとの反応による紙材増強剤

若林信義

*Polyethylene glycol*、 $\beta$  *chloroethyl amino sulfonyle derivative* の合成

渡辺七生

ポリメチルアクリレートへのビニルメチルアクリレートのグラフト共重合

## 林田研究室

今般貴志先生の御退官後姫路工大より新しく林田教授を迎え、また約一年間の米國での留學生活(ウイスコンシン大学)を終えて帰國された武内助教、さらに今村研におられた高橋助手を迎え、全く面目を一新した林田研究室を築きました。卒論生は林田先生の御指導のもとに新しくプラスチック押出成型器を硬つて、非ニュートン流体の流動特性、スクリエー特性などの化学工学的な研究に従事する三名と、武内先生のもとで合成蛋白質纖維化学、合成蛋白質化学の研究に従事する三名、計六名の小所帯である。蛋白質の方では網系化学的な要素が殆んどなくなり、合成蛋白質化学一本になった。したがつて今年はSFの卒論生は一人も居ない。そういうわけで林田先生の化学工学、武内先生の蛋白質合成化学とも纖維化学に於て全く新しいステップを踏

み出し  
オカク  
導下に  
をかも  
します  
個性豊  
る?人

◇田中

◇松井

◇杉原

以上  
勤特  
◇不二

々出したわけで意味深い。林田、武田、高橋各先生とも益々篤実な、しかも  
オガタイ一方だけでなく所謂“話がわかる”タイプの良い方ばかりで、その指  
導下に六名の小所帯。春の西日をパイに浴びて独特のホノボノしたムード  
をかもし出している我々が研究室である。後輩の方々もお茶位のサービズは  
しますから時間があつたらダベりに来て下さい。後に御紹介する面々が各々  
個性豊かな良い話を聞かせて呉れるでしょう。それでは林田研の「期待され  
る？人開陳」の面々をマナ板に乗せてみましょう。

◇田中 亮----(甲陽学院高出) 多岐多感の若き日には俳優、歌手、小説  
家等々青雲の志華やかなものがあつたと聞く。なかなか美声の持  
主で過去の道コンでは賞状前教授におほめの言葉を頂戴して大い  
に気をよくしている由、指導力あり。前回鐵維展では活躍した。  
ただ乗物の中などで聞き慣れず大声で赤面する様な話をして我々  
をモジモジさせるのが欠点である。ボーリングが大好き。美観の  
味がある由。

◇松井正毅----(加古川東高出) 世が世なれば奇席の高座に上っていたか  
もしれない男。ともかく著書の方は理論、実演とも素人の域を出  
ていているといつてさしつかえなからう。寡黙な方だがなかなかの理  
論家。しかし時として大きな奇声を発して女の子を驚かす悪癖あ  
り。加古川くんだりから營々として通学するエネルギーを見よ。  
お母さん子でロマンチスト。ともかくホープである。

◇杉原 進----(都立<sup>に</sup>立<sup>て</sup>高出) 察に<sup>持</sup>いてはや四年目。その割には養  
に於ける努力がなくいまだに下級生と間違われる。宮田じゃないけ  
ど午後8時半の男で、陽もとつぷり暮れたころ全身に活気を呈し  
てくる。リリーフ専断。何か防衛率<sup>?</sup>がよくないのが玉にキズ。  
詩、音楽の愛好者でなかなかのロマンチスト。時々思い出した様  
に大声で歌をものして我々を困らせる。夜中、突如として起き上  
りマヌマヌしく「レースあみ」を始める奇癖ありと聞く。

〔以上三人は林田先生のもとでプラスチック押出成型器を使って流体の流  
動特性、スグリー特性等、化学工学的な問題を取り組む。〕

◇不二樹左石吉----(大手前高出) 世にも稀なる苗字の持ち主。度々独  
りメガネ、孤高の風貌は一見哲人を想わすが、実際はそれほどでも  
なく、以外と人なつっこいお母さん子で話もなかなか分る方。

“ニーナエを読んで パチンコで勝つて、酒を飲もう”などと訳

の分らんスローガンをかかげており、最近頭腦の敏達さを疑われている。なかむかの読書家であるが一冊本を読み終えたとそれをネタにして僕（佐藤）を謀殺しにかかるという悪癖あり。

卒論テーマ『高分子ポリアスパラギン酸の合成及びその化学反応性』

○池上三郎……（三國丘高出） 南へ下つて京南の育ち。「容姿端麗・眉目秀麗、学力優秀・品行方正・思想穩健・性格円満」な友人を持ちたいと願う男。本人はその逆かというところでもなく、なかなかの眉目秀麗ぶりである。性格も円満。（他のことは保証の限りでないが……）家に帰ると兄貴ズラして穩しいところであるが京都へ出てくるとバイト・マーヅマン・テイト・パチンコともかくじつとしていないマメな男である。たにかというところ「エエカゲンナ！」という口癖あり。酒を飲むとボマキが始まる。卒論テーマ……『高分子ポリヒスタジンの合成及びその化学反応性』

○佐藤光則……（大阪学大付属高出） 卒業のアタシのところを見ると、「靈長類、ヒト属、日本人科、大阪人に属す。しかし原産は東京、宝塚あたりに在り身体が弱いのに好んで酒、煙草を嗜好する悪い動物。しかし毒は有らず。性質は穩しいが時として欺瞞的になることがあるから捕獲の際は注意されたい。周りのものに誘われると、ひよこひよこどこへても付いてゆく性質あり 捕獲するにはオバQのオモチヤか錠剤のブドー酒か同種妙薬のメスを使っておびき寄せると、あたふたと出て来てすぐにワナにかかるから勞はない。どちらかというところ夜行性。生活様式は一夫一婦制のようでオシドリに似て夫婦仲はムツマジイ。ただしこの種の動物は概してメスの方が勢力を有していると報告されている』とある。エヘヘ。卒論テーマ……『メチルグルタマートの極性溶媒中での重合。溶媒及び開始剤の重合反応に及ぼす影響』

〔以上三人は武内先生の指導のもとに合成蛋白質化学をやります〕

（文責、佐藤）

## 内野研究室

我が研究室は、織化教室二階の西側実験室と、織化教室北側に建てられている木造実験室である。

有機合成の看板をかかげるこの部屋のメンバーは、内野教授を頭に、後藤教授、助手の加藤さん、大学院生2人、卒論生8人、聴講生2人と、昨年より大層充実した研究陣を形成している。

皆、明るく、研究熱心な人間ばかり、静かな落ち着いたムードが最高の研究室である。

たまにキズなのは、余りにも離れた二つの実験室、器具、薬品を運んだり連絡し合ったりするのに何回となく、階段を上ったり下ったりすると、夕ロツキーになり、夕方ともなればヘトヘトになる事である。たった二階までしかないこの織化教室にもエレベーターがあればとつくづく感ずるこの頃である。(参考までにいわせてもらおうと、上下運動は、平行運動の約13倍のエネルギーがいるそうである。)

さてメンバーの紹介を行うことにしよう。

内野教授……質実、温厚な方で、我々の研究指導を懇切、丁寧にして下さる。内に秘められた研究熱心さと情熱は、いつも我々の魅せられる所である。魚つりがお好きとか、家では子供さんのよきお父さん。

後藤助教授……今年から本格的に内野研に所属されることになった。消費科学的な分野を研究されているこの学校の異色の存在電頭や、写真技術の権威者、あたたかく親しみやすい庶民的な方である。

加藤助手……この方も今年から本研究室の助手を勤めて下さることになった。今までは蛋白質合成を手掛けておられて少々畑違いの所であるが、我々のよき理解者として有益な助言を与えて下さる。

玉井(大学院生)……(2-メチレンミクロヘキサノンの合成とスタジエンとの共重合)

おとなしくて、純心で真面目でしかもスポーツは万能、  
工織きつてのいい男、

田伏(大学院生)……(デキストリンエステルの合成とその界面活性能の検討)  
明るくて、おおらかそのたどよう好青年、何事も熱心で、



弓道二段の腕名!!

太田(卒論生)……(デキストリンエステル<sup>1</sup>の合成と、その界面活性能の検討)

エツサエツサ三銃士のノ人、合植は、「なるほど」、(ナルホド)

鈴木(卒論生)……(Vinyl Chloroformate<sup>2</sup>の合成、重合)

一見英國紳士、二見ちやんぼらん、三見……。

けど気のいい男。野球なら任しといて!

須川(卒論生)……(Xylene resin<sup>3</sup>の合成)

朝っぱらから喫茶店へいく男、女に親切な男。しかし勉強を恋人とする男、

細島(卒論生)……(エキレンイミンの反応性)

中村隆(卒論生)……(Acrylol ethylenimine<sup>4</sup>系の反応性)

ちよっと見た所紳士。しかし中味も又……。文学を好み(?) 歌は低音の魅力あり。非常な頑張りやでもある。

中村隆(卒論生)……(Phenylvinyl ketone<sup>5</sup>の合成)

頼子のよいゴマスリ男。気が向けば信じられない位、真剣になる。しかしなかなか気が向かないのが欠点である。

原田(卒論生)……(Polyethyleneglycol<sup>6</sup>を使つた反応性加工剤の検討)

おとなしくつてやさしくつて、それでいてシンのある、内野研の爺一点

藤村(卒論生)……(isopropenyl ketone<sup>7</sup>の合成)

趣味は蕎とスキ一。寮通いを常とする。

不言実行型で、おだやかなムードをもつ男。

内田(聴講生)……(6 Nylon<sup>8</sup>の触媒外用途の検討)

趣味は蕎、暖さえあれば蕎をうっているらしい

人間味豊かなお人柄?、こぶつきの彼女一人あり、

渡辺(聴講生)……(Vinyl chloroformate<sup>9</sup>の合成、重合)

おとなしすぎてどこにいるのかわからないが、いつも自分の席を間違えずに坐っている。親切で明るい人である。

以上の人間の住んでいるこの研究室、今はいつ始まるとも知れず、シンカ  
ンとしてしているが、研究熱心を彼らの事、やがてどこの研究室にもまげない位  
活況を呈してくる事だろう。そして又将来、社会のリーダーとして集立つて  
いくであろう。内研諸君ガンバレ!!

## 今村研究室

今村研究室も3年目を迎えた。昨年来に、京大より清造先生が助教授として赴任され、いよいよ講座の内容も充実して来た。これで本研究室の指導スタッフは、御大今村教授、清造助教授、松本助手と言う事になった。本年の卒論生は10名である。新しく出来た大学院に2名の先輩もおられるし、研究生、聴講生の方も2名おられる。こういった人々が、先に述べた先生方の指導の下、張り切って勉強している。

本研究室の研究内容は高分子フィルム(ポリエステル、ポリアシドなど)の二軸延伸、溶融紡糸(ポリアシド、ポリエステル、ブレンドポリマー、弾性糸)セルロース繊維の改良等であるが、多くのものは昨年、一昨年よりの大きなテーマの引き継ぎである。

研究室は北の101、102号室と、南の工場内116号室などに分れており、北は松本先生、南は清造先生の監督下にある。北の方には、各種サイズの総合装置や、昨年本研究室で試作された二軸延伸装置など珍しい装置があり、南の工場には、浸式紡糸機や、各種測定機器、新しい溶融紡糸機が備えられ、更に、今秋には差動熱量計なる新鋭機器が設置される予定である。

さて、今研構成メンバーを一人ずつ紹介しておこう。まずスタッフは、

今村力造先生...京大大学院や、立命館大学の講義をもつておられ、

(京二中-三高-京大)

それにミンナがゴワガル? 補導奉

員長で、その御多忙ぶりは大変なものである。

清造 剛先生...少年時代以来、繊維学部の実験室近くに住んでおられ、

(山城高校-京大工)

門から部屋までの距離が、門からお

宅までの距離の数十倍あり、学内にバスを支らせてほしい?とか。工学博士の英文。

松本嘉代先生...西陣に生れ、育つて、住んでいたのに、今度、天王山の(洛陽高校-京大工機大) 麓に新居を移し、益々張り切っておられる。繊維学部監

員野球部のエース。

多賀 進先生...京大工業教員養成所の講師で、今研スタッフの応援団の(高槻高校-京大工) 一人。

塚城 博先生...若くみえても二児のパパさん。会社で相当しほられたの(松坂工高-東洋紡織株)か、聴講生の中では抜群の成績で、茶々目ながら何でも

よく知っておられる。

次に大学院は、

泉 由美子……下級生の面倒をよく見てくれる卒論生の良きお姉さま。  
(函宮高校出身) 大学院に残つて婚期がおくれるのではないかと、皆心配しているお嬢さん。

小川信夫……船場のほんぼん、気は優しくて力持ち、桃太郎好きで。  
(伏牛前高校出身) お供をつれて野や山をワンデーリンクしているが、鬼？ 征伐の話は聞いたことがない。

最後に卒論生としては、

二木 健一……彼は、京都大学で主として研究している。ラグビー部の重  
(大寺前高校出身) 鎮。タフネスを誇る彼も、百万遍では相当しぼられている。

大角 徹……太宰治の愛読者である。研究室に時折、私用の電話がかか  
(西舞高校出身) り、皆迷惑している。大の野球好き。

宇都宮俊夫……今研切つての理屈っぽい男、碁、将棋は仲々強く、目下、  
(市立尼崎高校出身) 今研生に碁を教えて、悦に入っている。

長谷川博三……福徳、田満の祖、非常に記録好きで、MEMO 魔の呼称が  
ある。面喰い自称のおかめもち。

松井敬雄……研究室一の實力派と自称するが疑問である。学生結婚する  
(大甲高校出身) のではないかというしきり。

定田美樹子……北陸出身で、そのナマリには入学以来悩まされている。  
(高陽高校出身) 不況で就職困難の故、永久兼取の口を目下、大勢集中

木村 卓……最近、追試にづく追試で、やつと運転免許をとつた。車も  
(谷岡高校出身) ないのね。自他共に許すギャンブラー。

志田耕一……山男である。休日になると、日本中の山に挑戦している。  
(北野高校出身) “娘さん、山男にやられるなよ！”である。

山田博之……大学管理法以来の闘士。何を捨てても断固闘う決意を持つ  
(生野高校出身) ている。しかし、今は勉強の方で旗をあげている。

松嶋邦夫……今研野球チーム(今村力造とそのグループ)の迷投手。  
(洛星高校出身) ギターを持たせると、彼の右に出るものはない。

以上のような面々が、日夜ガイガイ、ワヤワヤと実験を進めている。1.2  
3 回生の諸君も、気軽においで下さい。お茶位はご馳走致します。

# 繊維化学教室のあゆみ(前編)

今村研彦 松本喜代一

## 1. 序

いよいよ繊維学部に移転も更来年の夏に内定していると聞く。正に飛躍的発展が期待される時が来たようである。この時に当り、チエーン編集委員より、4年前に書いた「繊維化学教室の生いたちの記」をもう一度書くように依頼されて来た。これには實際困つたわけである。というのはチエーン以外に繊維化学科同窓会「織化会」の会誌に一昨年書いたばかりで、これではまるで繊維化学教室の歴史家ということになりかねない。誰かに代つてもらいたいのだが、まあ仕方ない。これも小生が学校の比較的近くに在りていた上、大学誕生、間もない昭和25年に、当時一次校だつた本学に入学して以来、ここに十数年間、繊維化学教室の歴史を肌はじめに体験して来た因果とあきらめよう。十分に慎重にペンを運んだ織化会々誌掲載したもののする写しになるがあしからず。また、ある人にとっては、不都合なことも出て来るかも知れないが、何卒御寛容の程を、前もつてお断りしておく。

## 2. 大学誕生

昭和22年~3年頃のわが教育界には、敗戦処理による社会一般の大混乱と同じように、ここにも一大旋風が渦巻いていた。6・3・3制への改革、男女共学、専門学校の廃止、新制大学の誕生など、遠駐軍G.H.Qによる日本人教育の大手筈が次々に行なわれていた。

22年の暮の頃、洛西衣笠山麓の京都繊維専の学校と、洛北松ヶ崎の京都工業専門学校とにもやはりその旋風は吹きすさんでいた。当時両校とも50年にもなる古い伝統のある校史をいかに進展させるべきか、それが両校の運命を決するだけにその渦中の人達は、数度かの会合を重ねて慎重に討議された。

その時、全ての専門学校は廃止され、旧制大学への合併吸収か、単科大学への昇格かの二者択一の道を選ばねばならない運命にあつたのである。京大は三高の廃止に伴つて新設を余儀なくされた教養部のねぐらを物色中であつた。というのは旧三高だけでは膨張した人教を收容しきれなかつたからである。そこでまずねらわれたのが、旧工専で、これこそ格好の学舎であつた。しかし当時の教授会は慎重に審議して、名を取らず実を求めて単科大学設置へと踏み切つたのである。

一方、織専の方は今日でさえもその真相が判明しないように、当時も全く謎に包まれていたようだ。多分、単科大学に昇格するため、どこからかの誘いの手をじつと待つていたのではなかつたらうかと後の新聞記事(京都新聞

「親大学物語」)に書かれていた。だが単科大学昇格への道は峻しく、障害も多かつた。即ち、GHQと重なつた文部省の基本方針には、国立大学は東京以外の奇県では一府県に一大学というのがあつて、京都には当然京大以外には認可されない状態にあつた。活発な陳情も巧妙な工作も全ては空転に終り、あわやこれまでと思われた。が、その土壇場に形勢は一変した。そのヒーローは米軍政部教育課長のE・ケース氏で、彼は当時教育界に吹きまくつた「ケース旋風」の素人で、そのスゴ腕と豪傑さはその頃の京都教育界で毛虫のように嫌われていたが、GHQでは日本の民主教育の進め方を法律家としての彼の行政手腕にある期待をかけていたようだった。京大との合併を返上した工專の単科大学設立委員会は、その道のすくい手をGHQに求めた。そこで京都教育界の旋風児ケース氏にそのユネを頼み込んだ。委員の熱心さにさすがの猛将も心を動かされ、絶好の切り札を委員会に授けた。それは向ふと「マツカーサーの教育最高顧問W.C.イールズ氏を学校に呼んで直接談判しろ。」ということであつた。早速、実施に移つたが、いとも簡単にK.O.された。しかし、それにもこりすある策略をもつて再度挑戦した。即ち23年4月26日工專で、近畿地区の全専門学校関係者へのGHQからの新制大学に関する講習会がそれで、いかにも表面はそうであつても、実は工專とケース氏が仕組んだイールズ氏招聘のための芝居だつた。後に設立委員が文部省へ出向いた時には、既に織専と工專との合併昇格の構想が決つていた。

これによつて文部省の一府県一大学の基本線は脆くもくずれ出したといわれている。こうして、両校の合併は順調に話が進み、翌24年5月31日国立京都工芸繊維大学は誕生した。ここで最後までもたつたのが、その名称であつた。数多くの候補があつたが、工芸的色彩を強く主張する旧工專の立校精神から「工芸」と案外簡単に出た「繊維」の名を両立させることになつたが次にどちらを先にするで一悶着し、結局A.B.C.順でも、イロハ順でもアイウエオ順でもいずれも工芸の方が先ということ、「工芸繊維大学」といかにも長い名称と相成つた次第である。そしてまた勢力対峙のどちらの学部にも本部を置くことは、もめ事の要因になりやすいとの意向から、中間の地、北野神社前に「本部」が設置された。

開学式ならびに学部第1回入学式は、梅雨あけの7月11日工芸学部において新入生約200名と学長以下教職員約300名の前で挙行された。

### 3. 繊維学部と工芸学部

それとも繊維学部として新発足した旧繊維専門の前身というのは、明治32年6月に発足した当時の農商務省に属した京都蚕業講習所がそれである。

障害は東以外に終の七つつ界で律家併をめた。心さは向談判され4月開す氏が出向いわ立京であ校精たがイウにも本北野おい

やして大正3年3月になつて官制が修正され、文部省直割学校としての京都高等蚕業学校、俗にいう「高蚕」となり、昭和6年3月に再び官制改正があつて京都高等蚕業学校と改称されたが、昭和19年4月京都繊維専門学校と改称されるまで養蚕を主体にした文字とおり蚕の学校であつた。そして昭和24年5月大学に昇格して後も暫らくは養蚕科はいつの時代でもこの学校の主流であつた。神代の昔からの養蚕業が昭和の御代になつて衰退しようとは疑いもなく信じていた人々が多々あつたからであろう。それが大変革の中に突入して、絹が王座からずり落ちてしまつたのにもかかわらず、ここでは過去の光輝ある伝統が重んじられて、大きく根を張つた養蚕科が幅をきかせていた。

それが他と比べてなんともなく茫息い繊維学部の零細さの原因になつてい

のではなからうか。その古臭い気風の学部の中には、内外共に近代的な繊維化学教室が建つている。新旧両校舎の対照は、その昔も繊維学部の全てを象徴しているといつても過言ではなからう。大学昇格の際、繊維専門の教授会で現在もつとも脚光を浴びている繊維化学科を潰そうとした動きがあつた。

幸いにも同窓会の一部の有力な援助によつて救われたが、今から思えば、それら教授会のメンバーよりも同窓会の一部幹部の方がずっと先見の明があつたのだから全く皮肉というものである。以来、繊維化学科と養蚕科との関係はまことにもつて複雑で、いわばそれは、封建時代よりの工対農の宿命的な対立ともいえるのではなからうか。

一方、工芸学部の方は、その前身を明治35年3月に文部省直轄の学校として設置された京都高等工芸学校にその第一歩をみた。当時は左京区吉田にあつた校舎も、昭和5年11月現在の地に新築移転した。ここには、皇室と連がつた一の誇りがあつて、古い教授連の間で今も往時をしのぶ語り草を聞く。

それは、皇室からの特殊工芸品の製造受注で、その発端は、初代校長中沢岩太先生(前学長の父)の個人的な連がりに始まる。先生は東大時代に宮内省御料局技師を委嘱されておられたが、ある時、昭憲皇太后から直接にご下問になつたクレープデシンの国産技術による試作をお受けし、全校あげて作りあげて献上したところ大好評を博したというエピソードがある。

さて、両学部には大学昇格の時の対等合併などの面子が今にも糸を引いているのか、何かと問題が起きた。その根が、一つの大学でありながら二分されている同窓会、自治会それに学園祭など、また、繊維学部の繊維化学や紡績は、工芸学部の色染や繊維とそれそれ内容的に非常に似かよつている点である。かと思つと、物理・化学・数学などの教養基礎科目が工芸学部ではかなり充実しているのに、繊維学部ではやや軽視されている感じがするといつ

た具合で、世間のいう寄り合い世帯のいわゆる「タコ足大学」といつても、その足の数が少ないだけではないに格好の悪いタコといつた状態である。

なお繊維学部の学科内容の不均衡もその一つに入る。工学部の方が、機織、建築、色素、窯業、意匠、生産機械、電気工学の7学科が各々第1から第4講座までナンバーリンクしてまとまった編成であるのに対して、繊維学部では、養蚕3、製糸紡績5、繊維化学4と全くアンバランスで、それがまた学科内でその特徴を誇張するかのようにならな講義と銘付つて、相互目し合つていた。入試応募率の高い学科ほど講座数も教員数も少なく、低率な学科の方がかえつて講座数従つて教員数が多いというのだから全く変な話である。

この原因は、これまでも温存しようとした旧織専のウエットなやり方が今なお糸を引いているといえるであらう。しかし、これもようやく38年末整理統合され、養蚕が6講座に、製糸紡績は今までの2コース制から1コース制にまとめられ、そして繊維化学39年から5講座になつて、どうやら講座数だけはバランスがとれたが、教員数は旧態依然として不均衡のままである。

#### 4、専門学校時代の繊維化学教室

繊維化学教室のそもそもの始まりは、世界第2次大戦の昭和16年にさかのぼる。風雲急を告げる頃のわが国の化繊業界の躍進は全く目覚しかつた。即ち、大正4年わが国で初のビスコース工場が誕生して以来わずか20年ほどの間にその優位を米国と競つていた。そして昭和14年には、その前年米国でナイロンが発表されたのに一層刺激されて、わが国初の合成繊維「合成一号」現在のビニロンの研究が完成した。更に翌15年には、わが国でもナイロン6の研究が完成するし、米国ではテリレンが発明され、るといつたように、いよいよ化繊時代の様相を現わしてきた。しかし、当時の京都繊維専門学校では、化繊なんて絹や木綿など天然繊維の代用品でしかないように考えられていたらしい。従つて繊維化学科の誕生の直接の原因は、伝統の絹についての化学的な研究のためであつたと聞いている。スタッフも生物化学系の方々ばかりであつたという。また学生の方も、戦争にかり出されるのを逃れるために入学したような人達が多かつたと聞く。教員側も、学生側もそんな調子だから、まるで無気力で、伝統の養蚕関係の6つの科の陰にかくれて小さくなつていたということである。先輩諸兄あしからず御寛容のほどを。

しかし、このような状態であつた中にも、伊藤武男先生(前信州大学々長)岩田久敬先生(九州大学農学部教授)浜村保次先生(前本学繊維学部長)美和正忠先生(前奈良女子大家政学部長)ら多くの先生方の忍耐と努力のあったことを忘れてはならない。

繊維化学科が第1回の卒業生を送り出したのは、太平洋戦争たけなわの昭和19年3月で、その数30名、翌20年は20名、そして21年になると、戦争に学徒出陣されたりして、卒業生はわずかに7名、22年になつてからは復員組などもあつて38名、そして23年には実に60名の多きに達した。それから、24年が34名、25年も同じく34名、26年の27名を送り出したところで、遂に専門学校の幕は閉じたのである。その間の繊維化学科卒業生は計238名である。

#### 5. 木造時代の繊維化学教室

大学昇格当時の繊維化学教室は全く身じめであつた。それというのも、前述のように、一度はヤミに暮つてしまおうとされた、いわば不義の子であつたからともいへよう。実験室はといえば、昔の寄宿舎とその食堂だつた木造の小屋がそれにあてられ、有機溶剤や火気など使うのは、気が気でなかつた。まして、応急的配線の電気や、仮配管のガスでは、多くの実験に役立たず、教授自ら、教官、学生らみんなが力を合わせて、手を真黒に、汗水流して配線工事や、配管工事をやつた。それだけではない。新らしく入つて来た中古の機械の土台をつくるのに、炎天下でコンクリートをねつたこともあつた。もちろん、一寸した器具や、機械などはみんなの寺で一日中工作室に入つて手細工で作つた。それほど、実験室には物もなければ、金もなかつた。

当時まだ食糧事情は悪く、ある先生などは、田舎から来ている学生に頼んで買った芋俵一俵を実験室に持ち込んで、研究や実験に疲れると、ゴソゴソと焼き芋をされた。もちろん、研究室のみんなも時にはお相伴に預つた。

また、学生の中には、小まめに乾燥器で自分のねり上げたパンを焼く者もいた。だが、いざ実験となるとみな希望に胸ふくらませ、ぐちもこぼさずお互に戦時中にたけぎあげられたファイトを又出しにしてよく頑張つた。

とにかくみんなが創造の喜びのため、苦境をのりこえてガツチリとチームワークよくまとまつていた。そして京大なにそと「松下村塾」の塾生のように食しい設備の中で歯をくいしばつた。

一方、講義の方は、第1回入学生と第2回入学生の合同受講なんて度々あつた。それというのも、学生教は少ない上、スタッフもそれほどそろつていなかつた。従つて、時間表は空白が多かつた。2重登録もうまくやれば出来たので、週3日登校、あとはアルバイトといつた学生もあつた。当時はまだ旧制高校の残党？がおつたり、その流れをくむ多少バンカラな者もいた。

入試は第2回入学生までは一次校であつたが、第3回入学生からは二次校になつた。そして、入試競争率は全国トツソクラスランクされるようになった。



本造時代の遺物が今もなお一つだけ残してある。中庭のコンクリート台がそれである。これは当時の町田研の天秤台である。丁度、今の地の位置に町田研があり、草むらの中庭を迂って南に岩崎研が、反対側北側の今の2階建の東部に実験工場があつた。その西(現2階建西部)に資志研があり、その南に学生実験室があつて、その中の小部屋に、丸坊主頭(海軍菜ッ葉服着用)の相宅先生がおられた。またその南の方、今の桜並木の南に今なお残る小さな2~3段の階段の所に、32年に現在の位置へ移転されるまでの階段教室があつて、その中の小部屋(今はない)に後藤先生が電子顕微鏡と共に暮らしておられた。更に現在の階段教室・食堂・浴西寮などは当時は郵政省の電柱置場であつた。今の食堂はモルタル張りで一見立派に見えるが、実はこれは現在の東講義室と織化本館との間にあつた標本室・製図室の建物であつて、当時は風の日などをよく頭上から壁板が落ちて来たものである。とにかく当時の姿は、最近の卒業生諸氏や在校生諸兄姉には一寸想像も出来ない至極お粗末なものであつた。

#### 6. 改築時代の繊維化学教室

かくて大学昇格後、丸3年経つた27年の夏を迎えた。待望の改築工事が始つた。まずボロ実験室よりの撤退である。各研究室は、押しくらマンジユウのように仮住いの場を求めて、主として化学第4(現分析化学無機化学)の研究室へ押しかけた。大部屋は板囲いで区切つて2つの研究室が納まつた。夏休みの最中、思い出のボロ小屋はいとも簡単に潰され、引續いて鉄筋の教室の建設工事がその年の暮頃まで行なわれた。その第1期工事の建物が現在の実験工場で、現在、西側は本館と連絡されてしまつていたのでわからなくなつてゐるが、そこに玄関があつた。完成した時には小さいながらも立派な鉄筋だけに一同大喜びで、特に第1期生などは後僅かに残つた学生生活のファイナーレを飾るうと大張切りで卒業実験の仕上げをやつた。しかし、そこにはガスも水道も実験台の上まで配管してなかつた。これというのも元々スロツク建築ですまそうとしていたのを、繊維化学科教授連の熱心な陳情で、本格的鉄筋になつたので、限られた予算内ではどうしても配管まで出来なかつたということである。第1期生は残り少ない期間のため暫定工事にとどめ、本格的工事は第2期生の卒業生が請負つた。だが、残念ながら本願のように行かず、今でもそのまま残つてゐるように、無ザマにも実験台の上に長々と鉄管をはわした。

翌年第2期工事が本館の北階段の練まで、續いて29年には第3期工事が現在の106号・206号室の線まで行なわれ、やつと町田研も資志研も本館の

方へ帰つて来た。それから中一年おいて、31年に最終工事が行なわれ、遂に全館完成と相成つた次第である。その間5年の歳月と約4,000万円の工費を費した。

この時代の繊維化学教室の特長は、戦前時代のため、先輩が大勢残つていたり、また失敗して帰つて来たりして、みんながそれぞれ後輩の指導に當つていたことである。そして、工場では小型熔融紡糸機によるナイロンテクスが作られていた。

30年には繊維化学教室P.Rのために第1回の繊維展が図書館を中心に開かれた。——(つづく)——

## 編 集 後 記

今年も難関を突破して入学してきた外人留学生3名を含む61名の新生を迎え、また新しく大学院も設立され、いよいよ繊維の発展が期待されている。

Chainのほうも今度はかなり原稿が集まり、伝統を保存しつつ、新しいものを少しずつ取り入れ、なんとか魅力あるものにしようとのNo.22号に力を寄りました。

※部統をこころも一段落ち着き、C科にも一大躍進を成す時が来ようである。機関誌としてのChainの進む道は我々自身の進むべき道であり、大いに話し合いの場とし、また、いこいの場とされたい。

今後とも名実ともにC科のChainであるという自信と誇りをもち競けてゆきたいと思つている。

著兄弟の積極的な寄稿を待つています。

# CHAIN No. 22

発 行 日 ・ 昭和41年5月31日

発 行 者 ・ 京都工芸繊維大学繊維化学科

印 刷 ・ 青 倉 印 刷 所

TEL (81) 3374

編 集 ・ 繊維化学 Chain 編集部

編集代表 ・ 鎌 倉 洋 和

P 31 訂正  
詩歌の思い出  
相宅省吾

←→ P 33

繊維化学教室  
総合交歓会について  
繊維会々々 松本喜代

P 30 擾乱

10行目 すること  
14行目 陶酔しきれたら

→  
→

するには  
陶酔しきれたら